

BCL大好きマガジン「BCLは趣味の王様」別冊

珈琲とラジオ



Martin Butera 著

BCLの王子さま社

世界の反対側にいるBCL/DXerがどのようなものが 疑問に思ったことはありませんか？



せきやま☆れいわ(編集者)からマーティン・ブテラへ。

コーヒーとラジオを聞くこととは何ですか？

どのローカルまたは国際的なステーションが彼らに最も影響を与えましたか？

ステーションにチューニングするとき、彼らはどのような興味を持っていますか？

どんな言語を聞きたいですか？

リスニングレポートの送信とQSLの変更に興味がありますか？

普段使っているアンテナや受信機は？

ラジオに関連するすべての側面は、短波と他の帯域およびモードの両方で聞こえます。

本書はマーティン・ブテラによるブラジルのBCL愛好家との独占インタビューです。

著者について

Martín Butera (PT2061SWL) は、30年以上の経験を持つアマチュア無線家であり、アルゼンチンの無線コールサイン LU9EFO とブラジルのコールサイン PT2ZDX の下で、南米全域の DX 遠征に参加しています。彼は、世界のラジオのトピックをカバーするさまざまなニュースレターや雑誌に寄稿しています。15 ポイント 61 (15.61) として知られるブラジルのラジオリスナー CREW の創設者で、現在は 61 CREW のみです。マルティンはアルゼンチンの首都ブエノスアイレスで生まれました。彼は現在、ブラジルの首都ブラジリア DF に住んでいます。彼はまた、ジャーナリスト、ドキュメンタリーメーカー、Radio Atomika 106.1 MHz (ブエノスアイレス、アルゼンチン) の創設メンバーでもあります。マーティン・ブテラは、ブラジルおよびその他の南米のクラブの独占レポートを担当する、国際的なメンバーである ABC 秋葉原 BCL クラブです。

もくじ

インタビュー

Danilo Nonato	8
Carlos Latuff	8
Ivan Dias	19
Thiago P Machado	27
Valter Aguiar	40
Denis Zorbi	52

最後の一杯

Robert Velmeijer	73
------------------	----

Danilo Nonato



コーヒーとラジオをマルティン・ブテラと一緒に聞く（日本語版The Book）

世界で最も消費されている飲料の1つであるブラジルのコーヒーは、世界で2番目に大きな消費者であり、世界の輸出において長い歴史があります。 ブラジルは1727年に最初のコーヒーの種を受け取りました。

この本のアイデアは、ブラジルと南アメリカのラジオリスナー一般の現実を知ることへの関心から生まれました。

彼らはあなたの読者のように、コーヒーを共有し、別のラジオを聞いている会話です。

一杯のコーヒーを共有するということは、話す瞬間、質の高い瞬間を過ごす、それを楽しむ瞬間、リラックスする瞬間、喜びの瞬間を持つことを意味します。

これは、「コーヒーとラジオのリスニング」と呼ばれるこの特別なABCブック（秋葉原BCLクラブ）のアイデアであり、国際的なメンバー、ブラジルの特派員、ジャーナリスト、ラジオリスナーのMartínButeraが参加します。

南アメリカ大陸の他のラジオリスナーに会い、学びましょう。



写真：ラジオを聞く Danilo Nonato PY4014SWL

この本でCaféListenRadioconMartínButeraで最初に会うのは、日本語版で、現在2,000人以上のチャンネル登録者がいるYouTubeチャンネルを持っているブラジルで最も興味深いラジオリスナーの1人であるDaniloNonatoとコーヒーを飲みます。 、受信機、アンテナ、ステーションの興味深いレビューがあります。

ブラジル南東部のミナスジェライス州にあるブラジルの自治体、オウロプレト市の出身。

次のインタビューはポルトガル語のインタビューを日本に適応させたものです。元の言語で完全なインタビューを聞きたい人は、次のリンクからそうすることができます。

https://www.podomatic.com/podcasts/martin-butera54575/episodes/2019-07-31T19_02_17-07_00

MB：ラジオとの最初の接触は何でしたか？

ラジオとの最初の接触は非常に小さく、私は約5歳で、母はAMを聴いていました。私は、「motoradio」と呼ばれるブラジルのブランドの約7バンドのラジオ受信機を持っていました。彼女は私が小さいとき私はとてもいたずらでたくさん泣き、母がラジオをつけたとき私は落ち着いたと私に言った。

7歳の時、ボタンをいじり始めて、AMから短波バンドSW1、SW2、SW3などに行き始めました...最初に聞いたラジオはRadio Nederlandだったのを覚えています、私が最初の受信機を購入したのは15歳と16歳のときで、ラジオリスナーまたはDxsistaであることがどのようなものかを考えました。

もちろん、当時はインターネットがなく、趣味から学ぶ情報は他のラジオリスナーを編集したニュースレターでした。ブラジルで発行されたポルトガル語でいくつか受け取ったのを覚えています。

MB：最初に受け取った手紙は何だったのか覚えていますか？

もちろん、私がそれを非常に念頭に置いているのであれば、それはBBCからのものであり、エリザベス女王の写真を持っていたのは郵便QSLだったことを覚えています。世界の別の場所から、そして文化的にとっても豊かで興味深い国からの手紙を受け取ることは喜びでした。手紙を受け取ってから一週間後、ラジオで迎えてくれたのも嬉しかったです。すごい気持ちでした。

MB：QSLカードで受信を確認することが重要だと思いますか？

私は多くのQSLを持っていますが、今日はそれほど重要だとは思っていません。個人的には、ラジオは反対側にあります。

私はラジオを聞くのが好きです。たとえば、論争を超えて北朝鮮のラジオを聞いたり、ボツワナや最も一般的なラジオマルティやハバナキューバからアメリカの声を聞いたりします。今日、これらのラジオを彼らの出身地から、彼らの言語で聞くことが私が大好きなものです。

短波を聞いたおかげで、私はいくつかの文化、宗教に出会い、言語、料理、ラジオはカード以上のものであることを知っていました。

MB：あなたはアマチュアラジオでもありますか？それでは、なぜラジオで話すよりも聞くことに惹かれたのですか？

聞くとみんなからもっと学ぶと思います。今日はブラジルのアマチュア無線がとても楽しい時間を過ごしています。たくさんの活動があります。今日のブラジルのアマチュア無線を聞くことは科学について学ぶことが重要だと思います。とテクノロジー、それが理由です常にもっと聞くのが好きです。

MB：あなたは今日、南アメリカで、そして世界中でさえ、山でのラジオの聴取について、それについて私に話すことができる素晴らしい参考資料ですか？

それは可能な限り干渉の少ない受信を見つける必要性から始まり、私は山に登り始めました、それは私がフル信号のブザー（UVB-76）のような受信のビデオを持っていることは信じられないほどでした。

私は高さ1500メートルから1800メートルの美しい山々がある山岳地帯に住んでおり、自然と純粋な空気との接触に加えて、別の側面、新しい側面からラジオを再発見しました。

MB：リスニングにはどのような機器とアンテナを使用していますか？

私はさまざまな受信機を持っています。山に行くときは、受信機をできるだけオリジナルでシンプルにするのが好きです。自家製のループがあることもあります。私の考えはほとんど外部アンテナを使用せず、可能な限り最高のものを取得しようとすることです。元の状態での受信機のパフォーマンス。

MB：ABC（秋葉原BCLクラブ）の読者にどんなメッセージを残せますか？

趣味は「死ななかった」、反対側には「ラジオは生きている」という放送局と受信機があります。私が残すことができるメッセージは、彼らが電子メールまたは手紙のいずれかで駅と対話しているということですが、私たちが反対側にいることを私たちに知らせてください。



写真（Ligia Katze）：Martín Butera、Danilo Nonatoとコーヒーを飲み、ペロオリゾンテの街。

今日のゲストのビデオDaniloNonato PY4014SWL

山々とその街の美しい景色を望む「ピコ・ド・イタコロミ」山から聞いているダニーロ・ノナト：

<https://youtu.be/WQhGlweDfV8>

山からUVB-76を聴いているDaniloNonato：

<https://youtu.be/NrX1d06P-tE>

あなたは彼のYouTubeチャンネルに入っているDaniloNonatoの多くの興味深いビデオを見ることができます、好きで購読することを忘れないでください：

<https://www.youtube.com/channel/UCOrACK6ZZUbmfpqiZD4dpA>

Carlos Latuff



コーヒーとラジオはマルティン・ブテラと一緒に聴きます、今日私のゲストはカルロス・ラトゥフです

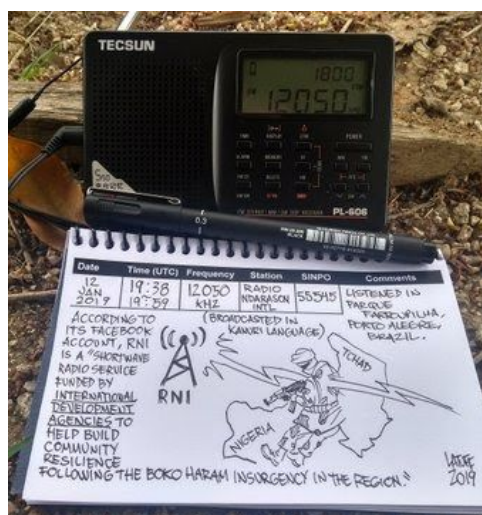
ブラジルは、祝福された豆が収穫される国土全体の16の地域に分散している2000以上の自治体のおかげで、主要なコーヒー輸出国です。ブラジルのコーヒー部門は800万人以上の直接雇用を生み出しています

この南米の国でコーヒー栽培がもたらすバリューチェーンは、世代を超えて、技術と注意に満ちた伝統が完成されてきたことです。この絶妙なトリートメントは、冬は穏やかで非常に乾燥し、夏は蒸し暑く、完璧な気候になります。さらに、屋内作物は海洋現象の範囲を超えています。

土壌の均一性も素晴らしいコーヒーの生産に貢献しています。

私はマーティン・ブテラです。コーヒーを飲み、人々に会い、すべてについて少しおしゃべりするのが好きです。

大陸のこの地域からラジオでさまざまな情熱的な人々についてもっと学ぶことを勧めます。



Date	Time (UTC)	Frequency	Station	SINPO	Comments
12 JAN 2019	19:38 19:59	12050 KHZ	RADIO NDARASON INTL	55545	LISTENED IN PARQUE FARROUPILHA, PORTO ALEGRE, BRAZIL.
ACCORDING TO ITS FACEBOOK ACCOUNT, RNI IS A "SHORTWAVE RADIO SERVICE FUNDED BY INTERNATIONAL DEVELOPMENT AGENCIES TO HELP BUILD COMMUNITY RESILIENCE FOLLOWING THE BOKO HARAM INSURGENCY IN THE REGION."					

写真：受信レポート：Radio Ndarason International、カヌリ語で放送、ブラジルのポルトアレグレでカルロス・ラトゥフが聴いた

カルロス・アンリケ・ラトゥフ・デ・スーザ、または単に「カルロス・ラトゥフ」（1968年11月30日、リオデジャネイロ生まれ）は、有名なブラジルの漫画家であり、政治活動家です。ラトゥフは、1989年にリオデジャネイロのダウンタウンにある小さな広告代理店でイラストレーターとしてのキャリアを開始しました。彼は1990年にステバドール連合のニュースレターで彼の最初の漫画を出版した後漫画家になり、今日まで労働組合の報道機関で働き続けています。

インターネットの出現により、ラトゥフは芸術活動を開始し、サパティスタ運動のコピーレフトデザインを制作しました。1999年にヨルダン川西岸の占領地を訪れた後、彼はイスラエルとパレスチナの紛争の文脈でパレスチナの大義に共感し、彼の仕事の多くをそれに捧げました。彼はこの旅行中に反シオニストになり、今日は反シオニストの理想を広めるのを手伝っています。

彼のInstagramのページ（<https://www.instagram.com/carloslatuff/>）には、現在5万人以上のフォロワーがいます。もちろん、漫画家としての彼の作品を見ることができ、ラジオでも彼の情熱を示しています。



カルロス・ラトゥフによる風刺漫画
（ブラジルボルソナロ大統領-アマゾンの解体と搾取）



マーティンブテラとカルスラトゥフ（ホテルポルトアレグレ-リマエシルバ）、ブラジル南部2019、写真：Ligia Katze

1時間以上、そしてもちろん1杯以上のコーヒーについての大人の深い話の中で、私たちはカルスラトゥフと、ラジオ、地方および国際政治のすべてについて話し、彼があらゆる言葉で世界をどのように見ているかを見つめました。

これは、1時間の録音を完了したインタビューの要約と日本語での適応です。

また、以下から元の言語（ポルトガル語）でインタビューを聞くことができます

[link: https://www.podomatic.com/podcasts/martinbutera/episodes/2020-01-03T20_41_46-08_00](https://www.podomatic.com/podcasts/martinbutera/episodes/2020-01-03T20_41_46-08_00)

MB：ラジオでの最初のアプローチはどうでしたか？

CL：幼い頃から、両親は2つのボタンが付いた非常に古い木製のラジオ装置を持っていたことを覚えています。私たちは多くの警察の番組、特にサービスを聴いていました。サービスと言えば、人々が呼ぶ番組です。ラジオと何かを求めるメッセージを残してください、もちろんそれは午前でした。

ラジオの後ろを見て、バルブがオンになっているのを見て、それを喜んでいたことを覚えています。ラジオの中には小さな人がいて、声は私たちと話している小さな人の声だと想像さえしました。

それから私の両親は別のラジオとその新しいラジオを購入しました、それはすでに短波を持っていました、そして私が短波との最初の接触を始めたのはそこででした。

MB：あなたは何歳だったか覚えていますか？

そのようなこと、そしてそれは私を魅了しました、私はそれらのメッセージを書き留めるためにラジオを聞いて座って何時間も過ごしました。

私は本当にラジオで非常に感情的で歴史的な解放を持っています、私は漫画家ではなくラジオで働くべきでした（笑）CL：それは80年代の初めになるでしょう、私は約12歳になるでしょう、私は覚えていますモスクワのラジオやスイスの国際ラジオと連絡を取り始めたのは、冷戦の時期でした。母がロシアに手紙を書くのを恐れていたのを覚えています。共産主義者と混同しています（笑）...

ポルトガルのラジオモスクワでのサービスを聞いて、当時のブラジル政府がベトナム戦争で残ったオレンジ色のエージェントガスを使って削減していると聞いたのを覚えています。アマゾンの木。

私は短波ラジオに100%専念したことはありませんでしたが。

私の父はフィルコフォードラジオを持っていて、リオデジャネイロの「クロックラジオ」と呼ばれるラジオ局をよく聞くのが好きだったのを覚えています。当時、それはカナダのプロテストアント大臣、ロバートマカリストによって監督されました。ラジオが非常に異なっていたので、インテリジェント。

時間、音楽、好奇心を毎時「ご存知ですか？」と放送する放送局でした。たとえば、ハエがまっすぐ飛ぶと、世界中を一周するのですが、いくつあるかわかりません。日々...

MB：そうですね、デザインについて話しているので、絵を描くときはラジオを聴きたいですか？

CL：はい、でも私がお勧めする非常に優れたWebラジオから音楽を聴くのは、サンフランシスコの町の「Soma FM」と呼ばれる米国からのものだけです。これは、28の音楽チャンネルを提供する、コマーシャルのない独立したインターネットラジオです。アンダーグラウンドエレクトロニクス、チルアウト、アンビエント、ラウンジ、インディーロック、その他多くのスタイルなど、さまざまなスタイルのリスト。重要なDJと音楽セクターによってすべての手が選ばれました。

そのラジオは、デザイン時に私を集中させないので優れています。私はそれをバックグラウンドに残し、描画中に私に同行します。

ここにリンク <https://somafm.com/> を残します

MB：ラジオが切れていると多くの人が話しますが、それについてどう思いますか？

CL：終わりだとは言えませんが、変革は進んでいると思います。たとえば、DRM（World Digital Radio）がどんどん開発されているなど、テクノロジーについて話しています。

しかし、私はそれが終わっているとは思いません。たとえば、インターネットはどこにも到達せず、アフリカの深部、アジアの深部に到達せず、ここブラジルのアマゾンにも到達せず、携帯電話の信号も到達しません。アマゾン（笑い）。

アメリカがアフガニスタンに侵攻したとき、その占領はラジオの支援を受けて行われ、彼らは飛行機から発射されました。カイトドスのラジオはラジオがなくなったことについて話します、あなたはそれについてどう思いますか？

終わりとは言えませんが、変革が進んでいると思います。たとえば、DRM（World Digital Radio）がどんどん開発されているなど、テクノロジーについて話しています。

しかし、インターネットがどこにでも届かない、アフリカの奥深く、アジアの奥深くに届かない、ここブラジルのアマゾンにも届かない、携帯電話の信号が届かないなど、終わりだとは思いません。アマゾンに到達します。

アメリカがアフガニスタンに侵攻したとき、その占領はラジオの支援を受けて行われ、彼らは飛行機、カイトラジオ、ダイナモへのハンドルのモデルから発射し、人々に心理的な宣伝を発しました。

クリスチャンラジオのウェブサイトでゲリラの手にある写真で見たのと同じラジオが「私はテロを去り、今は神の言葉を選ぶ」と言って、同じラジオカイトを別の色で使用しているのは不思議です、奇妙な....少なくとも疑わしい

MB：それで、彼らはラジオが不足していると言っていると思います。それで、私たちはもっと注意を払わず、その間、私たちは何か他のものに注意を払っている間、それはまだ政治目的で使われていますか？

CL：いいえ、それだけではないと思います。すべての新しいテクノロジーが常に古いテクノロジーに取って代わります。問題は、この新しいテクノロジーが、アフガニスタンとパキスタンの国境にあるすべての場所にアクセスできるわけではないということです。

何世紀にもわたって、あるいはギニアやベナンで50を超える民族グループが対峙している場合、インターネットが到着しないためにインターネットを知らないため、誰もインターネットについて話しません。

そこであなたはラジオを聞きます、そしてまた紛争と検閲のある国のインターネットは、ラジオがそうしない代わりにそれを切るのがより簡単です。北朝鮮と韓国は現在、妨害（電波干渉）、素晴らしい、台湾に対する中国の同じ事件、またはイエメン共和国の現在の紛争で、地球全体に多くの事件があります。

MB：さて、ここアメリカでは、カリブ海で、事件はより深刻なラジオマルティとハバナラジオキューバのように見えましたか？

CL：もちろん、実質的に同じことです。マルティラジオを持っている米国は、最近エルサルバドル中央アメリカにあるラジオを通じて島のキューバにメッセージを送信し、午前に着するまで非常に強力に到着します。だから、短波が死んだ、またはただ馬鹿なことだと言うこと。

MB：中央アメリカのエルサルバドルについて教えてください。社会情勢はどうですか。サルバドルのラジオについて少し教えてください。

CL：ええと、ラジオのレベルでは、以前のように面白いものは何也没有ありません。たとえば、ファラブンド・マルティ・フロントのゲリラの公式声であるベンセレモス・ラジオです。

多くの宗教ラジオがあります、私はほぼ90%と言うでしょう。社会的な気候が非常に暑かった後、私はマラサルバトルチャ（MS-13）が私の仕事から来ているソヤパンゴコミュニティに入ることができました、そしてそれはすごいです、私はこれほど多くの葬儀場を並べて見たことがありませんでした。

MB：ビジネスは死ですか？

CL：ビジネスは麻薬戦争であり、メキシコのフェリペカルデロンで始まり、その結果、その国で終わり、全国にエンドツーエンドの麻薬カルテルが溢れ、セントロアメリカの他の地域にも拡大しました。米国政府の多大な参加により明らかです。

MB：宗教について言えば、単一の宗教をシステムとして信じていますか。たとえば、教皇については、他の宗教と頻繁に参加していると思いますか。そこには他の目的があると思いますか。具体的には、私たちが行くと思いますか。ユニークな宗教に？

CL：いいえ、宗教を扱うことは領土、影響力を扱うことです。たとえば、トルコの大統領「エルドアン」は神秘的な演技をする政治家であり、神の声を聞いて彼を送ります。メッセージ、ビジョンを持っており、そのメッセージで彼は権力を握ったが、彼はひどく民族主義的で非常に危険である。

MB：ラジオに戻りますが、今日は聞くことに集中していますか？

CL：私は中波のDxに非常に焦点を当てています。ここ南アメリカで約100ドルを残すことができる、Tecsun PL 6060に対して、路上で購入した2ドルのラジオでDXを実行できることに非常に魅了されています。たくさんのお金、もちろんそれは非常に良い受信機です...

しかし、どのラジオでもモロッコ、アルジェリア、サウジアラビアを聞くことができます。ここブラジルでは海の近くに行き、午前中にこれらの国をキャプチャすることは可能です。もちろん、太陽が沈むと終わります。

AMのモロッコからのラジオはブラジルとは何の関係也没有ありません、そしてそれは魅力的です。

コーランを聞くことは非常にクレイジーです、それは魔法です。そして、それが正しいか間違っているかを言っているのではありません。聞くこととしての私の仕事は、それを言うことではなく、物語を検証することです。

また、インターネットで聞くのと同じではなく、ノイズも大きいです。魔法です。

私はまた、少なくともこの大陸では、まだ多くの活動が行われているスパイラジオを聞くのが好きです。それはまだいくつかのサービスを維持しているキューバの場合です。

MB：QSLを変更しますか、シグナルレポートを送信しますか？

CL：いいえ、QSLカードに夢中になっているリスニングの古典的な固定はありません。それは問題ないようですが、お土産としてより多く見えています。今は意味がわかりません。以前はSIMPROコードが良かったのかもしれませんが、今日は携帯電話でラジオを録音し、それがどのように聞こえるかを示す必要があります。コードで説明する必要はありません。それは私の目標ではありません。

MB：ブラジルのDxsistaに対してどのような批判をしますか？

CL：ブラジルのDxsistaは、技術的な問題を越えてラジオについて考える必要があります。コンテンツについて考える必要があります。偶然ではありません。ラジオには非常に強い政治的重みがあり、一時停止することはできません。qsl期間を1つ変更するだけです。

MB：ブラジルと言えば、ブラジルのジャイル・ボルソナロ大統領のイメージは、こんなに短い時間でネガティブな国際的イメージを持っていると思いますか？

CL：彼は愚かで平凡なので、平均的な市民であり、最悪です。彼はブラジル社会で最悪のことを表しています。マツチョで同性愛嫌悪のボルソナロである平均的な市民は、彼が愚かで謙虚ではありません。それ

MB：あなたは偽装されていません、あなたは言いますか？

CL：もちろん、それは偽装されていません。少なくともブラジルのマスクが落ちたので、一方では良いことです。この国はいつもそれで問題を抱えていました、そして私はそれをたくさん隠します。

問題はブラジルではありませんが、地域的な問題です。ハンガリーの「アーデル・ヤーノシュ」大統領、フィリピンの「ロドリゴ・ドゥテルテ」、または英国の読者であるボリス・ジョンソンは、私が話していることを知っています。

ボルソナロは人種差別や常に存在していた同性愛嫌悪を発明したのではなく、効力だけを発明しました。そして今では他の大統領に頼ることができるので、自由にそうすることができます。

MB：そして、左側またはブラジルの社会主義では、自己批判をしますか？それは、ボルソナロのようなキャラクターがブラジルで権力を握るからですか？

CL：左翼と社会主義は、常に南アメリカで、非常に分数の動きでした。終わりの始まりはベルリンの壁の崩壊でした。革命を支援するための資金が不足したため、革命の言説から改革派の言説への左のステップがありました。旧ソビエト連邦の資金がなければ、それは終わりました。弾丸と権利とさえ同盟を結び始め、歴史的な卓越性を失った。

ベルリンの壁の後、本当の革命はありませんでした。2000年の初めの南アメリカ、ベネズエラ、アルゼンチン、ウルグアイ、パラグアイ、そしてここブラジルなど、社会主義の経験がありました。

MB：ブラジルについて言えば、その経験を維持できなかったのはどうしてですか？

CL：ここは労働者党と呼ばれ、彼らが発明しなかった腐敗に陥りました。ここブラジルでは、1500年の征服の時代以来腐敗があります。

労働党は汚職を発明しなかったが、それは一部であり、確かに彼らはブラジルの歴史の中で最も泥棒の政府でも腐敗でもないはずであるが、彼らは一部であり、メディアは非常に否定的な見方を生み出す責任があった。

そのため、人々はもはや政治的俳優を信じず、政治家への投票をやめます。トランプであるビジネスマンが政治家として偽装されて米国に現れ、同様のことがここで起こります。元軍隊だったボルソナロ、そして反政治が始まります。

MB：ブラジルのメディアを見ると、検閲があると思いますか？

CL：現時点ではありません、非常に関連性の高いメディアは閉鎖されていません。ここでボルソナロはトランプの方針に従っています。たとえば、トランプは米国でFoxnewsというメディアを選択しました。他のすべてはゴミであり、ここでボルソナロはRecordTVを選択しました。これは伝道者とSBTチャンネル（ブラジルテレビシステム）、ややファシストのイデオロギーを持つ人気のチャンネルです。

それから彼らはそれらを見捨てて残りを失格にするそれらの手段だけを重要視します。現時点では、それはその戦略です。

MB：ブラジルの未来をどう思いますか？

CL：とても心配です。政治的能力が不足しています。今日、ブラジルにはプロジェクトがありません。すべてが破壊の途上にあります...公教育、健康の破壊、焦土作戦に向かっています。

MB：主に日本人である会報の読者に、最後にどのようなメッセージを送ることができますか？

CL：まずおめでとうございます、ABC50は素晴らしいニュースレターです。それから、ラジオを聴いている私たち全員が、ラジオはまだ生きている、古いものではない、「古い学校」ではない、遅いものではない、と言う使命を持っていると思います。

先日、地震や津波の影響で、大災害が発生した場合に国民にメッセージを送るのはそれだけだと理解していたため、日本は何百万ものラジオを大量生産したと言った日本の友人がいます。インターネットやその他の技術は簡単に落ちる傾向があります。

次に、北朝鮮など他の国での重要度を考えてみてください。政府以外の目的でラジオを聴いている場合は、死刑を支払うこともできます。つまり、非常に深刻な問題です。バシールアルアサドのあるシリアや他の多くの国でもそうではありません。

ラジオは深刻なものであり、私たちはそれを守り続けなければなりません。

カルロス・ラトゥフのラジオを聴く

彼のラジオリスナーは主に政治的なコンテンツを含む放送局を探しています。現在7,600人以上のチャンネル登録者がいる彼のYouTube動画チャンネルの彼の映画の記録には、何百もの放送局があります。

<https://www.youtube.com/user/Latuff>

同じことが彼の募集のいくつかを説明しています。ラジオアシュナは、アフガニスタン向けにパシュトゥー語とダリー語で放送する米国政府の資金提供を受けた放送局である、voaニュースサービスです。

もう一つのお気に入り、北朝鮮の脱北者によって作成された北朝鮮改革ラジオであり、金正恩政権に不安定なメッセージを発行します。

また、サウジアラビアが資金提供するロンドンを拠点とするラジオ局であるイラン国際テレビラジオも見つかりました。これはペルシア語で放送され、イラン政権を不安定化させることを目的としています。

ナイジェリア向けにハウサ語で放送するマナラインターナショナルラジオ。送信機はフランスにあります。サラフィズム、イスラムの原理主義の流れにリンクされたイザラ運動のナイジェリアのラジオ

カルロス・ラトゥフはまた、ギレルモ・アルバラドのコダクターの「私たちのアメリカ」プログラムのラジオ・ハバナ・キューバのスペイン語でのプログラミングを通じて、香港での最新の抗議を非常に密接に追跡しました。

多くの聴衆がいて、そのすべてにおいて、カルロス・ラトゥフは、彼が耳を傾け、それを多くの意識を持って行っていることを知っています。間違いなく、真の短波政治活動家です。



ブラジル南部、ノヴァペトロポリス（RS）のニーニョダスアギアスパークのラジオマン「カルロスラトゥフ」
Karin LuLoolによる写真

Ivan Dias



サンパウロがブラジル、アメリカで最大の都市であり、人口が1,130万人で、世界で7番目に大きい都市であることは新しいことではありません。

待ち合わせ場所は偶然ではありませんでした。サンパウロの象徴的な待ち合わせ場所である共和国広場にある「MundoPão de Olivier」という有名なカフェでDxsistalvanDiasに会いました。

MundoPão de Olivierは、Olivier Noel Christian Anquierによるコンセプトカフェテリアで、Olivier Anquierとしてよく知られています。フランス人、ブラジル人の帰化シェフ、ビジネスマン、プレゼンターです。彼は現在、リアリティ番組Bake Off Brasilの審査員です。

そして、フランスについて言えば、コーヒーの世界に言及する奇妙な事実は、1652年にカフェプロコップという名前の後に有名なパリのコーヒーショップの最初のものがパリに設置され、ヴォルテール、ディデロット、ルソー、ベンジャミンなどの著名な男性が頻繁に訪れましたとりわけフランクリン。

今、あなたが現在サンパウロに住んでいて、パリにいらなくても本物のクロワッサンを食べたいのなら、これは正しい場所ですが、コーヒーはネスプレッソなので、強い感情を期待しないでください。



写真1 (Ligia Katze) : カフェテリアの正面、「MundoPão de Olivier」、ブラジルのサンパウロの共和国広場にあります。



写真2：街の中心にあるラプラザデラレプブリカの航空写真、
ブラジルで最も訪問された場所の1つです。



写真3（Ligia Katze）、MartinButeraとIvanDias、
面接を開始する準備ができました。

ここでは、ポルトガル語で約30分のインタビューを聞くことができます。ここに翻訳と適応があります（これはスペイン語へのテキスト翻訳ではありません。明らかに、インタビュー対象者のアイデアはここで尊重されます）。



https://www.podomatic.com/podcasts/martinbutera/episodes/2020-11-18T13_09_02-08_00

MB：ラジオの世界への最初のアプローチは何でしたか？

ラジオは私が幼い頃から私の人生につながっていました。それは私が今日まで住んでいるソロカバの街に引っ越したと関係があります。

私はサンパウロの首都で生まれ、父はソロカバ市（道路で約100 km）に引っ越さなければならなかった会社で働いていたので、家族全員がその街に引っ越してしまいました。

1986年にメキシコでサッカーのワールドカップが開催されていたのを覚えています。当時のサンパウロのテレビはVHFのみでした。テレビが少し古いため、テレビに合わせるにはコンバーターを設置する必要がありました。チャンネルもサッカーワールドカップのせいで、全部疲れて買えなかったもので、異世界のものみたいです（笑）...

ラジオが家の主人公になってしまいました。私は7歳か8歳でしたが、駅のアナウンスを今でも覚えています。それは本当に私をとて印象づけました。

私が今覚えているもう一つの奇妙なことは、当時ブラジルでエネルギーを節約するために、ステーションは夜の夜に電力を変更しました。たとえば、1 KWで送信した中波ステーションは、250Wで送信を開始します。手動だったので、アナウンサーが送信機の変更を発表したのを覚えています。それは何だったのか、母に聞いたのを覚えています。もちろん、母は私に答えられませんでした（笑）...

私は電子技術者の誰かがいて、彼がTotal Electronicsという雑誌を購入し、その雑誌にValter Aguiarが書いたコラムがあり、そこで彼らが短波局について話していたので、私は短波ラジオから始めました。

それで短波ラジオを探し始めました。その時私は約14歳で、それが始まりでした。

MB：最初に手に入れたラジオは何だったのか覚えていますか？

Philco B469の場合、中波と2つの短波帯があり、41メートルまたは49メートルだったと思います。

それからたくさんのラジオを手に入れて購入していましたが、90年代の終わりごろになって、すべての違いを生んだラジオを購入しました。それはソニー7600 Dでした。私たちの近くで、このあたりで購入したような気がします。今日このインタビューをしています。

そのラジオで私はすでに多くのことを成し遂げました、それは私にとって本当に地平を開いたものでした、それはサイドバンドでさえ非常に完全なデジタルラジオでした、そしてそれは私がユーティリティDXで始めたおかげでした。

ラジオ局が大好きですが、私がもっと興味を持っているのはユーティリティステーションだと思います。そのラジオで、デジタルモードをデコードするためのインターフェイスを設定できました。ブラジル海軍、イギリス海軍から最初のRTTYパッケージをキャプチャしたことを覚えています。ドイツの気象局である海軍は、私が覚えている後者でさえ、受信レポートを送信し、彼らが迅速に対応したことを覚えています。



写真4 : (例としての画像)、左側のIvanの最初のラジオPhilco B469
右側はSony7600Dです。

MB：趣味を始めたときに聞いているラジオ局は、リスナーとして最も影響を受けましたか？

ここブラジルにはdxsistasに愛されている放送局がたくさんあります。私はいつもラジオ・ネダーランドが大好きです。素晴らしいニュース制作があり、主に「通信の世界」という番組がありました。その番組を一週間待っていたのを覚えています。当時の私の町では、電話回線が非常に高額で、郵便も届かず、時間がかかったので、他のDxsistsとの連絡はラジオを聞くことだけでした。

その後、私がよく聴いた他のラジオ局は、ラジオ・スウェーデン・インターナショナル、ラジオ・カナダでした。私がそれらを聴き始めたとき、彼らはもはやポルトガル語でサービスを提供していなかったため、スペイン語で聴きました。

MB：言語について言えば、ラジオを公用語で聞くのが好きですか、それとも翻訳したいですか？

明らかな情報や文化的なプログラムであれば、ポルトガル語やスペイン語で聞く方が快適ですが、本格的なDXの場合は、言語がより希少でエキゾチックな方が良いのですが、私は行きます 奇妙なケースを教えてください

アイスランド語で放送しているアイスランド語の放送局から確認を得ました。これは非常に奇妙な言語であり、何も理解できません。たとえば、スワヒリ語でタンザニア語を聞いていると、今は理解できないアイスランド語を理解できます。何でも理解します。

ラジオを聞いていた時、週末にF1レースがあったのを覚えています。アナウンサーがパイロットの名前でライダーに名前を付けたので、なんとか理解できたのです。彼らがミハエルシューマッハとミカパウリハッキネンと名付けたことを理解してください。

MB：ブラジルでのDxsismoの活動がそれほど強くなかったと思うのはなぜですか？

2000年の初めまで、Dxsistas、DXcampのミーティングが開かれ、さまざまな地元のクラブからのニュースレターが届きましたが、さまざまな理由で減少し始めました。

たとえば、サンパウロに住んでいる場合、DXを実行することはほとんど不可能です。今日の大都市では、電気ノイズが多く、最悪の伝搬サイクルを経ています。

また、大きな駅がないことは、それらが存在するために常に不可欠であると思います。なぜなら、それらの駅は多くの人々にとって少しゲートウェイであり、どういうわけかあなたはより単純なものを持って、そして最も難しいものを探す必要があるからです。

いずれにせよ、趣味についての私の意見は、それはまだ終わっていないということです。私は通常、友達にSDRを取得し、田舎に行ってラジオを聴いたり録音したりすることを勧めています。私は通常そうします。私は数日都市から離れた場所に行き、それから6か月間聞くために自分自身を満足させます。そうすれば、私の都市でラジオをつけて落胆する必要はありません。今日、Dxsistaには少しの適応が欠けていると思います。

MB：多くの苦情、ほとんど行動はありませんか？

正確に言えば、24時間年中無休でラジオを使用している場合でも、ラジオには提供できるものがたくさんあるため、ラジオが提供するものの10%を取得することはできません。与える。

今日、最も単純で最も安価なSDRがいくつかありますが、不足しているのはDxsistsが適応したいものです。

MB：今日は紙のqslに興味がありますか？

Qslカードについて言えば、Sony 7600 Dを持っていると言ったラジオでも、その受信機で私が持っている最も重要な確認の1つを受け取りました。これは、サルバドール17.235KhzインペリアルラジオのステーションからのQslです。800 Wで、私が知る限り、ブラジルに送信されたそのステーションからの唯一のQSLです。

大きな駅の最初のqslはHCJBでした。キトエクアドルからです。15295kHzで頭の中にWRTH（World Radio TV Handbook）があることをよく覚えています（笑）...

今日、紙でqslを確認することははるかに困難です。これは、現時点で私が興味を持っているブラジルの中波局に関連して言います。

面白いことに、90年代に、それが何であるかを説明し、払い戻しを要求する領収書レポートを送信し、ステーションが応答すると、タイプライターで多くの文字を入力することさえあります。

たぶん、今日のインスタントソーシャルメディアコミュニケーションとそのすべて。ラジオは手紙に答えるのに時間がかからないという用語。

私の場合、99%の手紙を従来の方法で送信するのが好きです。ステーションが、仮想Qslを使用してステーションのPDFまたはJPGで応答することがわかっている場合にのみ、電子メールで送信します。今では、感謝のメッセージだけを、ロゴなしで、ステーションから何も受け取らずに受け取ることは、私にとって価値がありません。

私が適応について話していたとき、私はQslsの主題に適応しなければなりませんでした、私は今、彼らがステーションのスタンプと署名でそれを返すことができるかどうかを説明する、すでに書かれた一般的なqslで説明する手紙を送りました、そのおかげで注意してくださいシステム、私はより多くの応答を取得します。

MB：確認のために放送局の録画をアップロードするYouTubeチャンネルはありますか？

FMステーションでもよく使うと、Dxではリスナーが非常に短いので詳細を記録してから、ステーションにリンクを送って説明します。

いくつかのラジオは非常に驚いています...

MB：リージョナルDXクラブについて教えてくれるラジオクラブを作りましたか？

それは次のように始まりました。私はすでに市内のラジオリスナーを2、3人ほど知っていましたが、当時のyahooリストのおかげで、近くの都市から他の人が参加していることに気づき始めました。

だから私は自分の街や近くの場所のメンバーだけのリストを作ることを考え始めました、今日私たちはもはやメーリングリストを通して活動を維持していません、それはすべてWhatsAppによるものです、とにかくグループはさまざまな理由で活動を大幅に減らしました。

MB：あなたの街ソロカバでは、非常に特別な現象が生まれています。ブラジルで最初の無料FMが生まれたのはその街でしたが、それについて教えてください。

さて、私はこの現象の最後の段階を生きました、彼らは私が電子工学を学んだ学校の学生でしたEtec Rubens de Faria e Souza、それは街のバス停の近くにあり、彼らは身分証明書のない無料の駅でした、彼らはただ若者が音楽を渡すだけで、時々彼らは彼らが異なる都市にいと話し、音楽のテーマを求めて人々を放映しました、それは非常に興味深い現象でした。

MB：最後に、イヴァン、最後にいくつかの言葉と趣味についての考察をお願いします。

最初に感謝します。趣味についてお話しできて光栄でした。このインタビューに加えて、私たちはここに集まってDxcampを計画しているので、ラジオのリスニングに関して新しい瞬間を生きていると思います。マラジョー島でまもなく実施する予定です。

私はここブラジルでこの種のイニシアチブを見たことはありません。2000キロ以上離れたアマゾンの島に2つ旅行します。それがここブラジルだけでなく、外国のDxsistsに次のことを示すことができることを願っています。DXのチャンスを探している真面目な人たちがいて、一緒に活動に参加したいという方には大好評です。

どうもありがとうIvan



写真5 (Ligia Katze) : Martin Butera、マラジョー島のアマゾンジャングルのDxcampでIvan Diasと一緒に、詳細については: <https://dxcamp-marajo2019.blogspot.com/>

Thiago P Machado



次のCoffeeand Radio Listenインタビューは、私が現在住んでいるブラジルの首都、連邦直轄区のブラジリアで行われました。

ブラジリアは非常に新しい都市であり、1960年4月21日に当時の大統領ジュセリーノクビチェックによって発足しました。ブラジリアDFは、サルバドールとリオデジャネイロに次ぐ、正式にブラジルの3番目の首都になりました。

ブラジリアは非常に若いですが、すぐに国の主要な美食の中心地の1つになりました。

首都「バーブラジリア」と同じ名前のバーを偶然選んだものではありません。

バーは、壁に刻まれた物語や思い出に囲まれ、最高の郷愁が特徴のブラジリアの真の魂を描いた時の旅です。

506 SulStreetの「dasboas」の一角に位置するBarBrasíliaは、連邦直轄地の娯楽と食事の面での参考になります。今日、それはブラジルで最も受賞歴のある家の1つであり、ブラジル人の自由奔放な寺院（首都で生まれた人の名前）です。

リオデジャネイロのコパカバーナ市にある、20世紀初頭から薬局が所有していた印象的な家具で構成された、バーの隣にある古いラジオの美しいコレクション。また、20世紀前半にサンパウロで夜に使用されたシャンデリアも印象的です。したがって、カリオカ（リオデジャネイロで生まれた人々の名前）とパウリストの自由奔放な人々（サンパウロの街で生まれた人）の混合物を形成します。



写真1 (Ligia Katze) : 古い薬局のキャビネットの隣にある古いラジオのコレクション
バーブラジリアの20世紀初頭のランプ

そして私たちがコーヒーについて話すならば、若い首都は人工化学物質の助けなしに有機的に生産された成長のパイオニアです。コーヒーは別の種類の背の高い木の陰に播種されるため、必要な湿度を提供し、高品質のコーヒーを生産するのに役立ちます。

ブラジリアDFには有機栽培の農場がたくさんありますが、その中でも首都から70km離れたサンタローザ農場で生産された「カフェフォンテル」をお勧めします。もう1つの非常に興味深いコーヒーは「ロット17B」と呼ばれ、ブラジリア湖近くの家の裏庭で生産され、5,000本のコーヒーの木が植えられています。生態学的、100%アラビカ種。また、ブラジリアのウエストレイクにある農場で生産された「カフェセラズル」は、1.5ヘクタールの面積に2,000フィートのプランテーションがあり、1ヘクタールあたり20袋が100%オーガニックで生産されています。これらのカフェは、街中のバーやカフェで見つけることができます。

バーブラジリアに戻って、今日はDxisita Thiago Pereira Machadoとコーヒーを飲みます。彼は航空愛好家で、ゴイアス州の州都であるゴイアニアで生まれましたが、ブラジリアで帰化しました。

Dxisitaに加えて、2003年以来、彼は2メガピクセルのデジタルカメラでスポッターの趣味（飛行機の写真を撮る）を始め、彼は今日維持している趣味である最初の写真を撮り始めました。



写真2 (Ligia Katze) : マーティン・ブテラ、Dxisita Thiago Pereira Machado、バーブラジリア。

ここでは、ポルトガル語で約30分のインタビューを聞くことができます。ここに翻訳と適応があります（これはスペイン語へのテキスト翻訳ではありません。明らかに、インタビュー対象者のアイデアはここで尊重されます）。



https://www.podomatic.com/podcasts/martinbutera/episodes/2020-11-18T04_37_32-08_00

MB：ラジオを聴くことへの興味はどのようにして始まり、航空を聴くことへの興味はどこから始まりましたか？

ええと、その興味は私が小さい頃から来ていて、父は航空で働いていたので、私は幼い頃からすでに航空の世界と接触していました。週末に、父が飛行機を見に連れて行ってくれたのを覚えています。

面白いのは、飛行機を聴き始めて初めて、お父さんが実際に飛行機の通信部で働いていることに気づき、小さい頃はお父さんが働いていることしかわからなかったということです。飛行機でしかし彼は彼の仕事がどこに特化したかを知りませんでした。。

私が年をとった後、父がHF（高周波）を介して運用管理事務所で働いていたことを発見しました。彼がいくつかの会社でそれを行ったとき、1つは中央ブラジルと呼ばれ、今日は「Tam LinhasAereas」と呼ばれています。"。

ですから、私の父の仕事は基本的に、ブラジル全土の北部、中西部のルートを通っていた飛行機の話を書いて話すことでした。

それから私はここブラジリア地区連邦直轄区の空港で働きました、そして私はスポッターでもあります、私は飛行機の写真を撮ります。



写真3：「TamLinhas Aereas」からの飛行機で、チアゴペレイラマチャドによるスポッター、彼の父がコミュニケーションで働いていた会社。



写真4：チアゴ・ペレイラ・マチャドによるスポッター、
ブラジル空軍



写真5：チアゴ・ペレイラ・マチャドによるボーイング737-8EH飛行機へのスポッター
ブラジリア空港のGOL Linhas Aéreas

次のリンクでは、チアゴペレイラマチャドによるスポッターの作品にアクセスできます。

<https://www.jetphotos.com/showphotos.php?userid=5900>

MB：短い波の中で、あなたに最も影響を与えたラジオはどれでしたか？

短波では、CRI（インターナショナルチャイナラジオ）、NHK（ワールドラジオジャパン）をよく聴きました。短波を聴くのは本当に好きでしたが、Dx自体ではなく、文化的な部分からもっと聴くのが好きでした。たとえば、ロシアの声で、中東、アフリカの他の放送局、私はたくさん聴きました。ここからはあまり聴きにくいアンゴラの国立ラジオを覚えているので、まるでそれに同調しようとしている一定のDX。

短波のおかげで、今日は親友であり、この近くのゴイアス州に住んでいるDxsista Gustavo Maiaに会いました。彼は、航空管制、大西洋を横断するさまざまな飛行機などを聞く方法についてアドバイスしてくれました。エアバンドに興味を持ち、少しずつ短波放送をやめました。

MB：航空を聞くとき、レセプションのどこに興味がありますか、何を書き留めますか、飛行機の登録、会話の詳細、それについて少し教えてください。

私が本当に好きなのは、私がすでに知っている飛行機を聞くことです。私はスポッターです。私はすでに多くの航空機のナンバープレートを知っていて、飛行機を聞いているような感覚があります。私はすでに飛行機の写真を撮り、それを聞いています。今、例えば大西洋を横断している、あるいはアフリカやヨーロッパに到着しているのはとても美しい気分です。

もう1つの詳細は、可能な限り最も遠い航空機を聴こうとしていることです。これは、最終的にDXになります。

このようにして、たとえば、私はフランス領ポリネシア、オセアニア、米国のサンフランシスコからのロシアの航空管制を含む航空管制を聞くことができました。

また、軍の航空作戦に耳を傾けてみてください。たとえば、アメリカ人は多くの活動を行っており、コールサインやナンバープレートをコピーして、すべてをDXであるかのように記録します。

MB：そして、どのラジオ受信機から始めましたか、そして今日の受信機は何ですか？

私はRadioDegen DE 1103から始めました。当時、私は非常に役立つアンテナを持っていました。これは、同じくDegenブランドのモデルDE31のプリアンプされたアクティブループアンテナでした。

私は今日までそのラジオを持っています、そしてあなたは時々それをつけなければなりません、それは素晴らしく、操作がとても簡単で、そしてそれは私がこの趣味を本当に好きにしたものでした。

それからSDR-IQを購入し、アパートのバルコニーに置いた伸縮アンテナと一緒に使用しました。それは非常によく聞こえるアクティブアンテナでした。アパートに住んでいるときだけ、ノイズ、干渉がありました。とにかく多すぎるSDR-IQに魅了されると、スペクトル全

体を見ることができ、その時点で直接動きと位置がどこにあるかを見ることができます。さらに、それらには多くの

非常に単純な機能であり、唯一複雑なことは、SDR-IQを可能な限り最良の方法でマウントして、多くのノイズが発生しないようにすることです。

SDR-IQのおかげで、アンテナについて、伝搬の側面、つまりアクティビティに関連するすべてのことを研究することになります。

その後、私たちの生活に人が現れて、結婚して他人に気を配らなければなりません（笑）...

それでも、彼は今日まで飛行機の写真を撮り、聞いていましたが、以前のような強さではありませんでした。

MB：そして、コンピューターの画面にすべてが表示される可能性があるので、アナログで聞くのが好きですか、それともSDRで聞くのが好きですか？

私は2つのフォームが好きです。類推すると、すべてが驚きです。SDRでは、信号強度のウォーターフォールを見るのが面白く、さらに美しいと感じています。これは私を非常に魅了します。たとえば、通過する衛星を見ると、HF帯域全体でノイズが発生し、SDRでは、衛星がどのように動くかをリアルタイムで確認できます。

飛行機を聞くことはラジオを聞くこととは非常に異なります。たとえば、一定のキャリアを持つ飛行機は数分または数秒しか話しません。SDRを使用すると、飛行機を捕まえるのがはるかに簡単になります。

とにかく、私はアナログも本当に好きです。ラジオをオンにしてアンテナと出来上がりが良く、すべてを聞いています。他に何も必要ありません。類推すると、伝搬振動を聞くのが本当に好きです。信号が低く、突然大きく聞こえ始めます。

要するに、私は両方のシステムが好きです。それ以上に、私はエーテル自体を聞くのが好きだからです。

MB：ソフトウェア無線では、SDR-IQの後、他に何が起こったのですか？

次に、Raspberry Pi 2を搭載したRTL-SDRレシーバーを装備して、航空プロトコルであるモードSとADSBでメッセージを受信しました。

これらのプロトコルは一種の航空交通監視であり、飛行機はデータパケットを送信し、主なものは航空機の位置です。その後、無料のソフトウェアを使用すると、管制塔のようにこれらのトレースをモニターに表示できます。

それらの記録をフライトレーダーアプリケーション会社24と共有したとき、私は24時間年中無休でシステムを持っていました。それはフルタイムでした。

そして、この経験の興味深い点は、システムを長時間オンのままにしておくことで、システムが長時間監視し、VHF伝搬がどのように動作するかを確認できることでした。

近距離では、600キロ離れたところから荷物を受け取ることができました。通常は400キロのジャンプですが、もう少し管理しました。

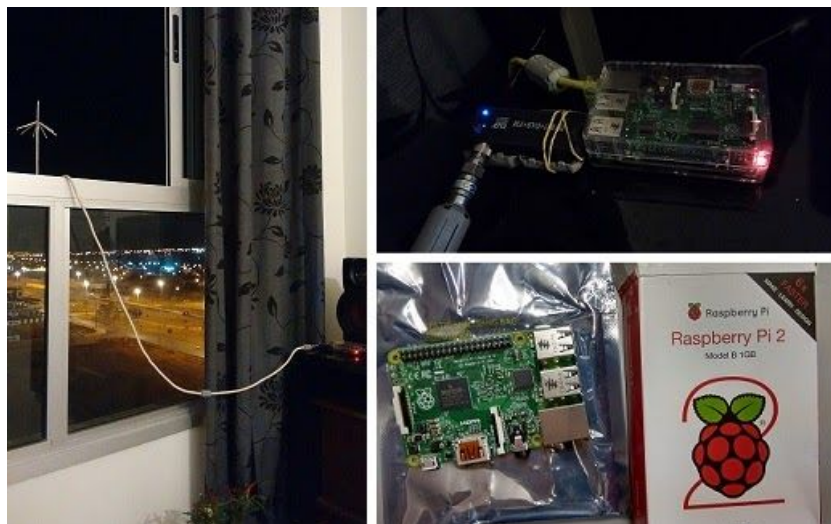


写真6： Thiago機器、Raspberry Pi2を搭載したRTL-SDRレシーバー
1090MHz周波数でモードSおよびADSBメッセージを受信します。



写真7：チアゴペレイラマチャドによるビール缶付き空中。レシピは基本的に、50オームの同軸ケーブル（TV）の一端に接続された1つのメスFコネクタ、269 mlのビール缶の底、7 cmの「壁」、および缶の底から上に7cmの同軸ケーブルです。メスコネクタに入ります。非常に正確な測定は使用せず、増幅器やフィルターなども使用しませんでした。地平線を望むエリアでは、受信距離は約400 kmです。これは、基本的に地形、航空機の高さ、および曲率によって制限されます。惑星。

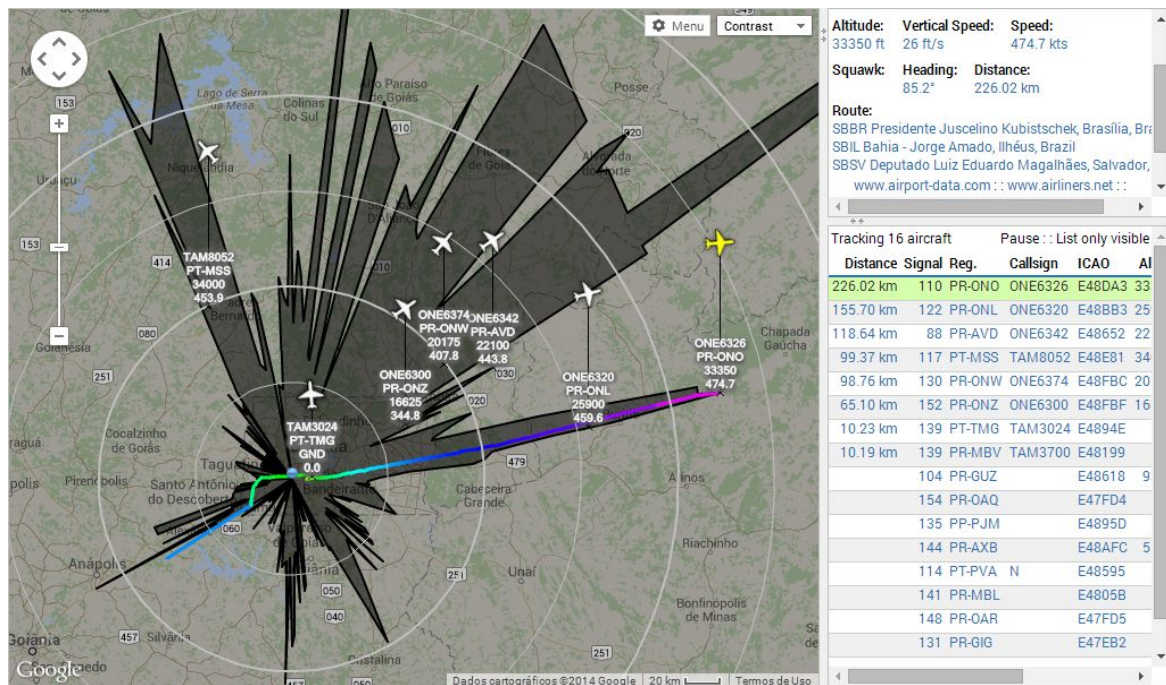


写真8：ThiagoによるADS-B、仮想レーダーサーバーのスクリーンショット、ブラジリア空港（BSB）を出発するアビアンカブラジル航空の5便の動きが観察されています。
実質的に一緒に、ブラジルの北東地域に向かって。

MB：航空機の緊急事態などについて、荷物を受け取ったことはありますか？

航空業界では、墜落した飛行機を探すのを何度も聞いたのですが、それは別の感情でした。テレビで飛行機の行方不明のニュースを見ている一方で、実際に何が起きているのかについての情報があります。複雑な状況になってしまいます。

それから、奇妙でもっと陽気なことが起こりました。通常のホームスキャナーを使用していて、自動的にスキャンしていると、突然英語の会話が聞こえました。見に行くと、ISSの周波数である145.8000でした。そしてそれは宇宙飛行士でした、彼らが他のアマチュア無線家とチャットするのを聞いてとても良かったです。

MB：今日これらのインタビューに持ってきたハンドヘルドレシーバーについて教えてください。

彼は私の忠実な仲間です、彼はユニデンペアキャットBCD325P2です、私はスポッターなので非常に実用的です、ここブラジリア空港で空気制御を聞いて、特別な飛行機が来るかどうかを調べるのはとても快適です、例えばから あなたの写真をまだ撮っていない代表团または航空機。

MB：最後に、ここブラジル、特に航空リスニングエリアでの活動について、どのような要約を教えてくださいませんか？

さて、ここブラジルでは、すべてがデジタルで始まり、たとえば携帯電話でリアルタイムに見るアプリケーションも、すべてがインターネットに向けられています。

実は、VHFを聞く活動は大きく落ち、短波では動きもほとんどありませんでした。たとえば、アメリカとヨーロッパを結ぶ大西洋とヨーロッパを結ぶ回廊の短波周波数が非常に忙しかったのです。ダカールの制御と今日、それらは実質的にすべて衛星経由で運用されています。

アマゾンの空中回廊をよく聞いていた頃、停電が発生して飛行機が短波に誘導されてしまったことを覚えています、今日は聞き取りにくかった短波 今日にはバックアップのようなものだと思います

チアゴありがとうございます!!



写真9 (Ligia Katze) : Dxsista Thiago Pereira MachadoとのMartín Butera、
握手で、もう1つのコーヒーとラジオを聞くインタビューの終わりに

チアゴペレイラマチャドがバーに持ってきたQslをいくつか紹介します。

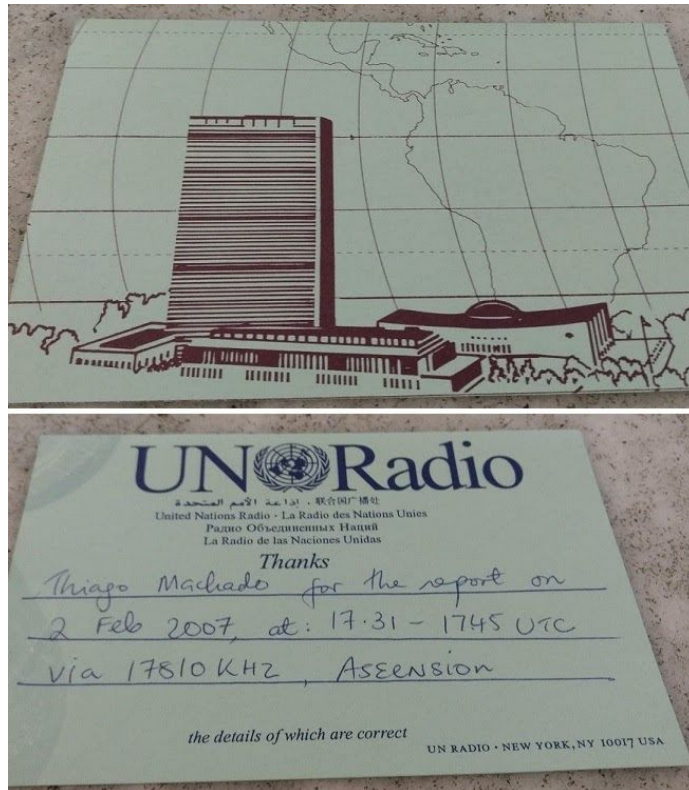


写真10：国連ラジオ確認Qslは1946年2月13日に作成されました。2017年に、国連ラジオと国連ニュースセンターが合併して国連ニュースを形成し、毎日のニュースとマルチメディアコンテンツをアラビア語、中国語、英語、フランス語、スワヒリ、ポルトガル語、ロシア語、スペイン語、ヒンディー語Thiago Pereira Machado



写真11：国連部の美しいディレクターシール付きの手紙。
 チアゴペレイラマチャド

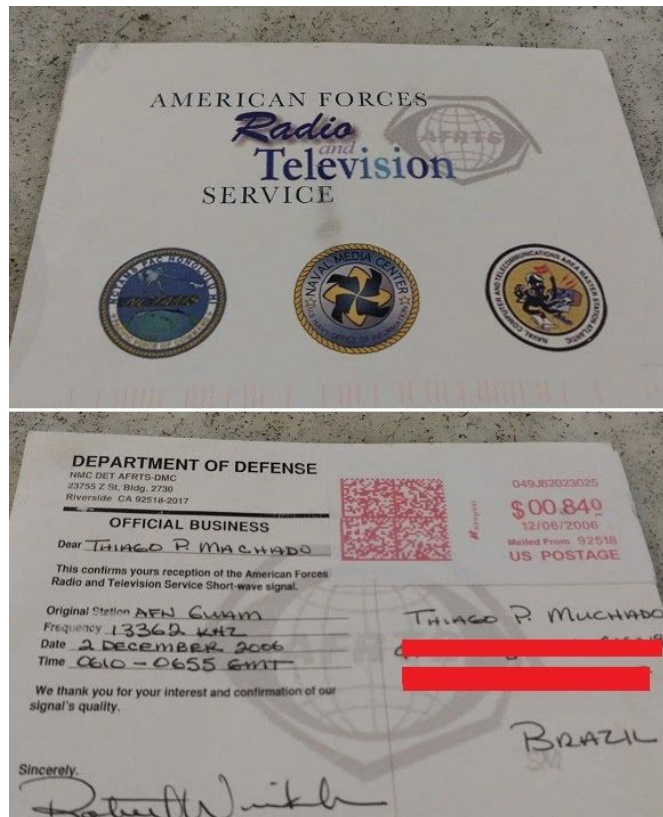


写真12：米軍のメディアサービスであるAmerican ForcesNetworkの確認Qsl。このサービスは、世界中の基地、船、空母に勤務する軍人を対象としており、政府機関や地域社会とのコミュニケーションの架け橋として機能します。チアゴペレイラマチャド



写真13：Radio RDP Internacional（ポルトガル）からの確認Qsl、チアゴ・ペレイラ・マチャド

ボーナス

私たちは妻（このレポートの写真家）と迷うことはできませんでした。バーブラジリアのビールの紛れもない品質、ハイパークリーミーで超寒い、そして彼らの古典的な「フランゴアパッサリーニョ」料理を味わってください。

フランゴ・ア・パッサリーニョは、通常は翼の鶏肉のいくつかの小さなカットで構成され、3つの部分にカットされています。これらの部分は熱い油で揚げられ、浸漬の下で、フライドチキンにニンニクと油のソースを運びます。

次の73と良いDxまで!!



写真14：マーティン・ブテラと妻のリジア・カツェ、
バーブラジリアで

Valter Aguiar



ブラジルは27の異なる州で構成されており、そのうち15の州では、国の北から南にかけて素晴らしいコーヒー活動が行われていますが、生産の98%が集中しているのは、ミナスジェライス州、エスピリトサント州の7州のみです。 、サンパウロ、バイーア、ロンドニア、ゴイアス、パラナ。

次の会議はDxersValter Aguiarの家で行われました。彼はパラナ州の州都である美しい都市クリチバに住んでおり、多くのブラジル人によって国内で最も寒い首都としてカタログ化されているため、おいしいホットコーヒーを飲むのに勝るものはありません。 。

パラナ州は間違いなく隅々までコーヒーを飲むことができる場所です。高級コーヒーを扱う職人のコーヒーショップがたくさんあります。たとえば、そのうちの1つには、3度のブラジルのバリスタチャンピオンであるレオモソのすべての卓越性があります。

FICAFÉ（スペシャルティコーヒーの国際見本市）もここで開催されます。

コーヒーはブラジルから5番目に輸出されている農工業製品であり、60億ドル以上を生み出しています。その主な市場は、米国、ドイツ、イタリア、日本、ベルギーです。

このコーヒートークは、ヴァルターにインタビューし、彼の最新の本「ORádioInternacionaldasOndasCurtasàInternet」について話すための完璧な言い訳でした。

ラジオの発明から始まり、20世紀から現在に至るまでの国際ラジオ局の発展とその後のインターネットへの移行について完全に説明した本。

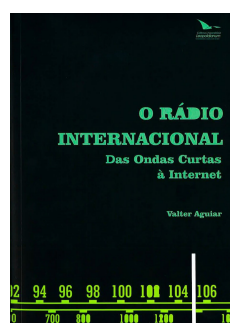
この本には、ヴァルターの個人的な確認コレクションからの72Qslを示す美しいギャラリーも含まれています。

この本はポルトガル語で書かれていることを思い出して、アマゾンブラジルのサイトで購入できます。興味のある人のためのリンクは次のとおりです。

<https://www.amazon.com.br/R%C3%A1dio-Internacional-Ondas-Curtas-Internet/dp/8560360883>

次のリンクからE-BOOK形式のバージョンを購入することもできます。

<https://macawpress.com/collections/editora-universitaria-leopoldianum/products/radio-internacional>



画像01：ヴァルターアギアルの本の表紙

今日のコーヒーとラジオのリッスンは、ヴァルター・アギアルとのインタビューをお届けします



写真02：本を持っているマーティン・ブテラとヴァルター・アギアル、
「ORádioInternacionaldasOndasCurtasàInternet」。

ここでは、ポルトガル語で約30分間のインタビューを聞くことができます。その後、翻訳と翻案を残します（これは英語へのテキスト翻訳ではなく、インタビュー対象者のアイデアがここで尊重されていることは明らかなです）。



https://www.podomatic.com/podcasts/martinbutera/episodes/2020-11-16T10_06_51-08_00

MB：ヴァルター、どうやってラジオを始めたのですか、これはどのようにしてあなたの情熱になりましたか？

私が15歳の時、彼らは私たちがここにテーブルに置いている短波ラジオをくれました。それは31.41メートルと49メートルしかありませんでしたが、私の情熱を目覚めさせるのに十分でした、それは母がくれたので、私はたくさんの蜂蜜を持っています。

一度目が覚めたらもう消えない、治療法のないウイルスみたいです（笑）

MB：最初に聞いたラジオ局はどれだったか覚えていますか？

はい、もちろん、私はポルトガル語とスペイン語でサービスを提供しているものを聴き始めました。これは80年代で、ポルトガル語で本当に多くのサービスがありました。ドイチェヴェレ、BBC、VOA、中国本土（ラジオペクイム）を聴いたことを覚えています。、私は冷戦の時、モスクワのラジオが大きな力で私の家に入ったのを覚えています。

モスクワのラジオは、ポルトガル語で1日3時間放送されていたのを覚えています。とても良い時間でした。世界で起こっていることについて、誰もが考えていることを聞くことができました。

MB：彼らは家でも聞いていましたか、それともあなただけでしたか？

少しずつみんなに感染してしまうと、個人的には増えていき、駅と連絡を取りたくなると、今日は誰も使っていない文字というものがありました（笑）...

ラジオを通して、ブラジルのラジオリスニングクラブを知るようになりました。当時、DXパウリストクラブがあったことを思い出しました。今日はブラジルのDXクラブになりました。また、もう存在しないGloboDXも覚えています。。

MB：そして、あなたが若い頃、あなたと最も共感したラジオ局は何でしたか？

私たちがテーブルに置いているこのラジオで、私はBBCを聴きましたが、ドイチェ・ヴェレ、ラジオ・ネダーランドのような良いラジオもたくさんありました。これら3つは基本的に、VOA（Voice of America）もありました。彼らが送信したDXに関するプログラムを思い出してください。つまり、私をマークしたものがいくつかありました。

MB：初めてラジオで自分の名前を読んだとき、手紙を読んだとき、何を感じましたか？

私が最初に送った手紙を覚えているなら、それはブラジルの郵便で返事を受け取らなかったラジオ・ネダーランドのためでした、しかし私は彼らに最初の受信報告を送ることを覚えています。

当時のRadioNederlandは、「コミュニケーションの世界」という番組を持っていて、受信レポートの作り方を教えていました。私の最初のレポートはその番組に関するものでした。

彼らが放送で読んだときに聞いたのを覚えています。今ではqslは来ませんでした（笑）...

MB：多くのDxersがRadio Nederlandについて教えてください。受信レポートを教えてアンテナを組み立てるのはとても良かったと思いますよね？

彼らが本当にとっても良くてそれほど大きくなかったなら、彼らは合計で約7つの言語をプログラムし、非常に戦略的な場所に3つの放送局を持っていましたが、ラジオが制作したコンテンツに違いをもたらし、それは本当に魅力的でした。

だから、あなたがラジオオランダについて尋ねる人は誰でも常に良い思い出を持つでしょう。彼らは大きなラジオ局のリソースを持っていませんでしたが、それは非常によくできた仕事であり、後で来るものも含めて私たちの世代に大きな影響を与えました。

MB：そして、どこから飛躍し始めますか。今日テーブルに持ってきたこのラジオを意味します。他のより完全な受信機やより優れたアンテナで聞くことは、あなたの人生において非常に重要なシンボルであるため、非常に感謝しています。

もちろん、このラジオが小さく、より多くの帯域を持つ他のラジオ局が到着した場合、デジタルラジオ、有名なSony Icf 2001ラジオ、Sony Sw 7600ラジオを覚えています。真実は、後者について言えば、私のSony7600は今はうつ病になっているので少し忘れてしまいました（笑）...ポルトガル語とスペイン語の放送が消え始めてからはあまり聴いていません。

実は私は自分自身と矛盾しています。私はたくさんのラジオを聴いていますが、もうそれほど短波ではありません。

MB：ステーションを元の言語で聴きたいですか？

本当に違いがあったので、気に入ったら英語で聴きました

MB：自分はDxsistだと思いますか？たとえば、QSIを収集しますか？

私が十分に集めるならば、私の本には私のqslの写真を含むいくつかのページがあります

MB：確認された国を追跡していますか？

私が123くらい持っているべきだと思うなら、私の本にはたくさんあります

MB：思い出に残るカードはどれですか、それとも特別なカードですか？

ええと、それらはすべて非常に歴史的な性格を持っています、例えば、フォークランド戦争の時の確認であるRAE（アルゼンチン共和国の国際サービス）のそれ、それらの本にあるラジオサンタヘレナのqsl ソビエト連邦のRadioFree Europe、Radio Central de Moscow、

Radio Paz y Progresoのqslを私の本にまとめました。よく見ると、短波の良さは物語の両面にあったからです。。

私はたくさん持っています、それらはすべて重要です、ポルトガル語でイスラエルからのラジオリビア、ラジオクウェート、ラジオコル、要するにたくさんあります...



写真03：地球上で最も離れた島の1つの古典的なQSLの正面、
南大西洋のセントヘレナ

MB：それでも、Qslの送受信に情熱を注いでいますか？

今日はもうありません。

MB：そして、FMや中波などの他のモードでDxingを実行しましたか？

FMは少し、中波はほとんど何もありません、本当に私が短波にいたところ。

MB：ブラジルのいくつかのラジオのモニターになりましたか？

はい、私はオランダ、BBC、ドイチェ・ヴェレのラジオ局のモニターとして参加しました。

MB：あなたの本では、インターネットでラジオの休憩のようなものはありますか？

最初にラジオがどのように発明されたのか、次に第二次世界大戦や冷戦などでどのように短波が発生したのかを説明した後、インターネットへのラジオの移行について説明し、目的地を詳しく説明しました。 それらのそれぞれ。

たとえば、まだ短波であるが、さらに削減されているラジオがありますが、インターネット上では、今日インターネット上にあるだけのものもあれば、単に終了したものもあります。

たとえばブラジルのドイチェ・ヴェレはこれ以上のラジオを行いませんが、アフリカの場合、BBCはブラジルのラジオをこれ以上行いません。ラジオ・ネダーランドは実質的に存在なくなり、別の組織によって管理されています。

MB：ラジオファンとして、このラジオからインターネットへの移行についてどう思いますか？

私はそれが避けられなかったと思います、あなたは今より良いオーディオ品質を持っています、あなたはいつもそれを聞きます、それは伝播、スケジュール、時期に依存しません、それは避けられませんでした...

さて、とにかく、短波のおかげでしか到着しない場所があります。北朝鮮では短波で入ります。ブラジルの内部では、短波でしか到着しません。たとえば、バチカンラジオはあなたと一緒に戻ってきました。アマゾンのためのポルトガル語でのサービス。

最近、ここブラジルのミナスジェライス州で、州がラジオインコンフィデンシアに終止符を打ちたいという非常に大きな議論があり、このラジオは、短波ラジオだけが届く州自体から最も遠い場所に短波で送信しますですから、短波をなくすことはできません。繰り返しますが、必然的な移行がありましたが、それでも短波は非常に重要な役割を果たしています。

MB：あまり成功していないように見える、デジタルラジオを通じた短波の将来はどうなると思いますか？

何が起こるかという、インターネットがすべての関心を集めました、一部の国は管理していました。たとえば、インドはデジタル短波ラジオの優れたネットワークを持っていますが、大都市ではインターネットの方がはるかに実用的でした。

MB：あなたの本に戻って、ラジオを知らない人にはどの章をお勧めしますか？また、ラジオをすでに知っている人にはどの章をお勧めしますか？

さて、後ろから前に、ラジオを知っている人のために、ほとんどすべての短波放送局、それらがどのように生まれたのか、彼らの作品は何だったのか、彼らに何が起こったのか、インターネットへの移行について話す章があります。Dxsistasが最も注目を集めるものでなければならぬので、その章は「世界中のラジオで」と呼ばれています。Dxsistsでない人のために、例えば、あなたはラジオの発明、第1章を持っています、そして歴史が好きな人のために非常に興味深い2つの章があります：第二次世界大戦と冷戦。

MB：この本のほかに、多くの人にとって、多くのDxsistsに影響を与えた雑誌に書いたことを知っていますが、その段階について教えてください。

はい、それは完全な電子雑誌でした、そして私はまた人気のあるアンテナと機械雑誌、ブラジル版のためにいくつかの記事を書きました。

ある日、Total Electronicという雑誌があることを知り、放送局のレポートを送ったところ、気に入ってくれました。編集者のニュートン・ブラガさんは、当時の伝説です。

雑誌は毎月発行され、私は小さなコラムを書きました。それは2か月ごとに表示され始め、その後毎月表示され、その後3ページで発行され、雑誌が閉じるまで大きくなり続けました。

MB：すべてが終わった理由について、どのような反省がありますか。Dxsismoはここブラジルで非常に強力でした。それは、どこにでも存在するクラブの人々の間の戦いを超えて残っていなかったためです。衰退の原因は何だと思いますか。趣味に無関心？

Dxsismoの活動がここで非常に強かった場合、私たちは多くの会議を開催し、年に2回の会議を開催しました。会議には国際局からのさまざまな人々が参加しましたが、Radio Nederland、VOA、BBC、RadioPequimからの訪問を覚えています。

私たちにとって重要であり、私たちに多くの印を付けた会議を覚えています。それはブラジル南部のフォス・ド・イグアス市での会議でした。

本当の原因はわかりませんが、短波放送の停電や移住に関係していると思います。

たとえば、ポルトガル語で最後に放送されたスウェーデンのラジオを聞いたとき、それはとても悲しいことだったので、もう短波ラジオを聞かないことを約束しました。

MB：さて、本に戻って、それは影響を与えていると思います、それは目覚めのようにでした、あなたはそれに気づきますか？

学生も見ているように、本の後ろにいる人がたくさんいるとしたら、ラジオの世界ではなくても、必ずしも短波に関係しているとは限りません。

MB：この本はリオデジャネイロブックビエンナーレで発表されましたが、それについて教えてください。

リオデジャネイロでの最初のプレゼンテーションである場合は、パラナ大学のSesc（Serviço Social do Comércio）で、ブラジルの大学編集者協会と一緒に発表されました。

リオデジャネイロは非常に興味深いものでした。別のDxsistaの友人が、ブラジルのバイーア州のアントニオアルゴロの本を発表していて、短波と一緒に表現していたので良かったです。



写真04：リオデジャネイロブックビエンナーレでのヴァルターアギアル、ブラジルのラジオリスニングにおけるもう1つの重要な参考資料、エンジニアのサルメントカンポス <http://www.sarmento.blog.br/>

MB：この本は大学から出版されていますが、学術部門にとってこの本の興味は何ですか？

1986年にジャーナリストとして訓練を受けたサンパウロのカトリック聖人大学によって編集された場合。

アカデミックな世界で短波の話題を紹介することはとても重要だと思いますが、研究をしたとき、正直なところ、すでにたくさんのモノグラフが書かれているのを見つけ、短波がすでに研究されていることに気づきました。

私は他の国の学者にも会い始めました。たとえばポルトガルでのRDP（International Portugal Radio Broadcasting）についての出身国の短波について書いたり、スイスの教師がRadio Switzerland Internationalの話をしたりしました。

今日、世界のさまざまな地域で短波ラジオが同時に調査されています。つまり、今日はDxersであり、最終的には学術研究になります（笑）...

MB：短波から少し離れていると言われたので、この本のアイデアはどのようにして生まれたのですか？

何が起こるかという、人々は決してすべてから撤退することなく、ある人がより不在になり、他の人がより存在する瞬間があります。

ある日、BBCのブラジルのサービスであるグーグルを利用した理由がわかりません。eBayのBBCでブラジルのサービスの50レコードを販売している人を見つけました。DXクラブの友人Carlos Felipeと話をしました。ブラジルと私たちはすべてのレコードを購入してすべてのデジタル化を開始することにしました。それが最初のスタートでした。それからこの本のアイデアが生まれました。

MB：研究から本を書くまでにどれくらいの時間がかかりましたか？

そしてそれは約2年でした...

MB：今、あなたはそれを擁護し、インタビューをし、本を持って旅行しなければなりません、それはしばらく時間がかかります...しかしその間にあなたはすでにあなたの頭の中に別の本を持っていますか？

一度に1つずつは行きません（笑）...

MB：最後に、このレポートの読者、一般的には海外のDxersから来ている読者に、ラジオの将来についてどのようなメッセージを伝えますか？ブラジル人と南アメリカ人としてどのようなメッセージを伝えることができますか？

ラジオの未来については、ラジオが終わらないほど長く聴き、テレビがラジオを終わらせ、インターネットがラジオを終わらせようとしていたが、ラジオは続いている。

さて、短波ラジオ局が多すぎてバンドに収まらなくなった時代を生きていた人にとって、その人は今日ラジオをつけて落胆します。

しかし、私がその時代に参加した場合、それは世界にとって、そして人類の歴史にとってさえ、非常に重要な段階であったことに同意する必要があります。それは決して起こりませんでした。

今、ラジオが移行したことを理解する必要がありますが、それはまだ存在し、従来の方法でラジオを聞くのが好きで、聞くべきことがまだたくさんあります。

誰かが放送している限り、常に何かを聞くことができます。

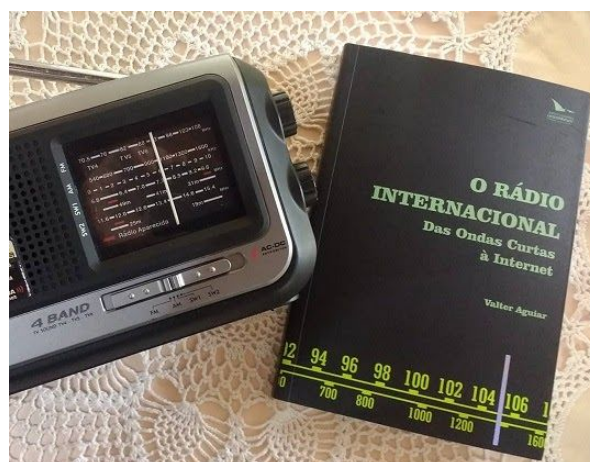


写真05：ヴァルターアギアルの最初のラジオ局と彼の最新の本

Robert Veltmeijer



写真06 : Robert Veltmeijer教授、写真撮影
親愛なる友人のフランシスコ・トゥレツリ

ブラジルのDxsitasが地元のラジオリスナーの家長と見なしているRobert Veltmeijer教授の人生と軌跡について、ABC Clubで読む将来の研究のために、ブラジルのDxersの指示対象とのこれらのコーヒーインタビューを利用します。

Robert Veltmeijerは、1926年に生まれ、農業工学の訓練を受けたオランダ人でした。第二次世界大戦の経済危機から逃れてブラジルに到着した彼は、ブラジルのいくつかの異なる場所を通過した後、間違いなくサンパウロの中心部、正確にはラルゴ・ド・アルーシュの住所、418アパート56に位置していました。

ブラジルのDxsismに関する重要な会議がそこで行われたので、この方向性が鍵となるでしょう。

そのため、これらのコーヒーの会話はロバート氏について尋ねるためにも使用されました。ここから、ヴァルター・アギアルへのこれらの小さな質問が浮かび上がります。

MB : ヴァルター、ブラジル人を大いにマークしたDxersのRobert Veltmeijerについて教えてください。

ロバートは素晴らしい人でした、彼はラジオについて話すために彼の家で一緒に15または20人を迎えました、彼は本当にいつも私たちのために教えることがたくさんありました。

私はいくつかのことを覚えています。彼の図書館は私が今まで見た中で最も多様な図書館でした。歴史の本があり、スウェーデン語でもさまざまな言語で書かれていました。ドイツ語のドンキホーテが家に帰り、本を持って読んだのは本当に歩く。

彼は多くの興味を持っていて、さまざまなことに興味を持っていたので、ロバートが本を持っていたと想像したことから、彼はロシア語の本を持っていたのを覚えています。彼は非常に文化的な人でした。

MB : 若い頃、ロバートを訪ねて、彼の図書館から本を取り出したと言っていましたが、その経験はすべて、何らかの形であなたをマークしました。今日はラジオで本を書いていますか？

さて、この本は、更新された歴史を持つ必要性から生まれました。つまり、ポルトガル語の短波の本はすでにいくつかありますが、かなり前に書かれたものもあれば、特定のトピックに関するものもあります。可能な限り最も完全な物語。とポルトガル語で。

チャプターを読むようなベースだと言っていて、まだまだ探し始めるところがありますが、それが意図したベースです。充実したと思います（笑）...

MB : ありがとう...

Denis Zoqbi





写真01Ligia Katze : 今日のゲストとCoffee and Radio Listenチーム、Martin Butera
写真家のリジア・カッツェ（マーティンの妻）

次の「コーヒーとラジオを聞く」のインタビューは、象徴的なコーヒーショップで行われました。これは、ブラジルのサンパウロにある「プラカダリバブリカ」のスターバックスに他なりません。

アメリカのシアトルで生まれたコーヒーショップのチェーンは私のお気に入りのバーの1つであり、その品質の高いコーヒーだけでなく、彼らが「第3の場所」と呼ぶ場所、つまりお客様はおいしいコーヒーを楽しんで休むことができます。

いくつかの興味深い事実は、スターバックスが2006年にブラジルに到着したということです。

最初のコーヒーショップはサンパウロのモルンビショッピングセンターにある店でした。当初、スターバックスはミナスジェライス、サンパウロ、バイア地域からの最高のコーヒーの全国ブレンドを発売する必要がありました。これはここブラジルでのみ販売されていました。おいしいコーヒーを飲むスペシャリストであるブラジル人の味覚を魅了するためでした。そのブレンドまたはブレンドのコーヒーは、今日まで販売され続けています。

スターバックスは国内に122店舗を展開しており、そのうち54店舗がサンパウロにあります。

友人とコーヒーを飲むことは、世界で最も優れた治療法の1つであることが科学的に証明されています。それに、ラジオでの講演を追加すると想像してみてください。

面倒なことはせずに、この「コーヒーとラジオを聞く」のインタビュー対象者を知りましょう。

Coffee and Radio Listen今日、DenisZogbiとのインタビューをお届けします



写真02Ligia Katze : 確認とQslを見てDenisZogbiとMartinButera

ここでは、ポルトガル語で約30分間のインタビューを聞くことができます。その後、翻訳と翻案を残します（これは英語へのテキスト翻訳ではなく、インタビュー対象者のアイデアがここで尊重されていることは明らかです）。



https://www.podomatic.com/podcasts/martinbutera/episodes/2020-11-15T21_05_48-08_00

サンパウロの首都で生まれたDenisZogbiは、ブラジルで最も影響力のあるDxsistsの一人であり、会社を設立したおかげで、非常に優れた受信性能を備えた非常に経済的なループアンテナを開発したことでブラジルとラテンアメリカのDxsismで知られるようになりました。Stars Telecomと呼ばれる会社は、ブラジルに20年以上存在し、すでにブラジルの内外で数千のアンテナを販売しています。

Denis Zogbiは天文学の愛好家であり、CASP（Clube deAstronomiadeSãoPaulo）でさまざまなコースを教えることで天文学に関心のある人々を訓練しています。また、IAG USP（Institute of Astronomy、Geophysics and Atmospheric Sciences）でも協力しています。天文学、地球物理学、大気科学研究所は主要なセンターの1つです

ブラジルの正確な地球科学の分野の研究チームで、120年以上の活動があります。

デニス・ゾクビは、マルコス・ポンテスの同僚であり友人であり、最初のブラジル人宇宙飛行士であり、現在はブラジルの科学技術大臣であるアマチュア無線ブラジレロ（PY0AEB）です。



写真03個人アーカイブ：デニス・ゾクビ、マルコス・ポンテス、アマチュア無線ブラジレロ（PY0AEB）、最初のブラジルの宇宙飛行士、現在はブラジルの科学技術大臣、彼らが天文学と技術について共有した多くの会議の1つで

ラジオでの彼の神父母（彼をラジオの世界に連れて行った人々）は、1965年にブラジル宇宙計画の最初のステップを開始したブラジルチームのメンバーであり、サンパウロで亡くなったバシリオバラノフ大尉に他なりません。2008年。そしてアマチュアラジオ、ジュニアトーレスデカストロ（PY2BJO）は、これまでで最初の個人であり、DOVE-OSCAR17と呼ばれる独自の衛星を打ち上げた唯一の人物として国際的に知られています。発売から30年で完成し、ブラジルで初めてラジオアマチュアに捧げられました。トーレス氏は、2018年にサンパウロでもすでに亡くなっています。

Denis Zoqbilは、AEB（ブラジル宇宙機関）を含むさまざまな公的機関および民間機関の講師として積極的に参加しています。彼はまたそれをします

Campus Party Brasilの初版（Campus Party Brasilは、革新、創造性、科学、起業家精神の祭典を中心に行われる世界最大の技術体験であるCampus Partyのブラジル版です）。



写真04個人アーカイブ：キャンパスパーティーブラジルで講演を行うDenis Zobqi（2015）



写真05個人アーカイブ：AEB（ブラジル宇宙機関）のDenis Zoqbi

彼は、サンパウロのイビラプエラ公園にあるプラネタリウムである、イビラプエラプラネタリウムとしても知られるアリストテレスオルシーニプラネタリウム教授の訪問と協力しています。1957年1月に発足し、ブラジルとラテンアメリカで最初のプラネタリウムでした。

また、ミナスジェライス州のブラゾポリスとピラングスの自治体の間にあるピコドスディアス天文台でも行われています。この天文台は、国立天体物理学研究所によって運営および保守されています。標高1,864mに位置し、ブラジル大陸で最大の天文台の1つです。



写真06個人アーカイブ：Observatorio Pico dosDiasのDenisZobqi



写真07個人アーカイブ：ピコドスディアス天文台で天文学の学生と一緒にいるデニスゾブキ

昨年、彼の会社であるStars Telecomは、いくつかの協力者と協力して、点字に刻印されたチューニングボタンとコネクタを採用した、視覚障害者が使用できる一連の中波ループアンテナを設計および組み立てました。これらのアンテナには、VoxNVDAファイルの中波でデキシズムを練習する方法に関するオリエンテーションマニュアルも付属しています。



写真08個人アーカイブ：アンテナ工場で幸せなデニス・ソクビ



写真09個人アーカイブ：ブラインドDxsist、MárcioCoelho、サントアンドレ、サンパウロ、ブラジルの居住者、StarsTelecomによって作成された適応ループDZアンテナを使用します。

MB：デニス、ラジオへの最初のアプローチはどうか、当時から何を覚えていますか、どのようにしてラジオを聴き始めましたか？

私は約10歳で、1984年の終わりでした。この数年間、私はラジオを聞くのが本当に好きでした。ヨーロッパとレバノン出身の私の家族は、私たちの家に來た親戚が聞いていたので、短波ラジオを持っていました。海外からのラジオ、たまたま家の中で家具を変えてしまったのですが、運命のせいで部屋に短波ラジオが残っていて、そこで何かを聴き始めました。

1996年のことを覚えています。それはメキシコでのサッカーのワールドカップでした。サッカーは好きではありませんでしたが、モスクワの中央ラジオを聴きながら、約3日間部屋に閉じ込められました。ポルトガル語で放送していて、それが私を魅了し、それが私の人生に望んでいたことだとすぐにわかりました。

その1986年、私の人生を永遠に刻んだ2つのことがあったことを覚えています。1つはハレー彗星がサンパウロを通過するのを見ていたこと、もう1つは短波送信を聞いていたことです。

私はラジオが大好きだったので、AP（AP通信）で働く無線通信士になりました。また、コミュニケーション分野でも開発しました。趣味がとても強かったので、後で職業に影響を与えました。

MB：短波であなたに最も影響を与えたラジオ局や番組は何でしたか？

Radio Central Moscow、Radio Canada、BBC、Radio Nederlandの時代は確実でしたが、これらの放送局は毎日聞く義務がありました。番組は大きく異なり、今日のジャーナリストとして、いくつかのアプローチをとっていました。同じニュースですが、ほとんど不可能だと思います。

当時、私はラジオモスクワのようなソビエト州の共産主義ラジオ局を聴き、同じ日に、例えば、中立的なイデオロギーを持った文化ラジオであるラジオカナダインターナショナルを聴き、同じことについて話しました。私はすごかった。

MB：いつDxsismにジャンプしましたか？それともそれは決して起こりませんでしたか？Qslを変更することだけが重要であると思われるDxsistであることを超えて、ラジオを聞く喜びを失わないことを意味します。

真実は、私は常に技術的な部分が好きでした。私はいつも好きなステーションに忠実なラジオリスナーでした。Dxプレーヤーとして、私が最も難しいと思ったものを聞くのが好きでした。私たちは80年代のDxプレーヤーでした。「ラジオを聞いて、ラジオのブリードも」というフレーズは、できるだけ投げて、たくさんのラジオを聴いて、幸運にも多くのアマチュア無線に会い、技術的な部分、電子機器を見せてくれました。そのおかげで、私は電子機器の勉強を終え、奇妙な無線機を復元しました。そのおかげで、今は通信エリアに住んでいて、宇宙通信エリアでも少し開発しました。私はDxersだからです。

MB：技術的に言えば、このカフェに持ってきてくれたQslsを楽しんでいます。技術的に最も魅力的なのは、大小を問わず、どのラジオ局ですか。

さて、私は非常に良いリスナーを持っていました、私はそれについて文句を言うことはできません、とにかく私はqslを集める特徴がありません、私は私のためにラジオ局を個人的に聞くだけで幸せですそしてそれはすでに私に届きます、Qslsカードそれはのためです私はそのリスニングを補完するだけで、もちろんそれは素晴らしいと思います。だから私は彼らをあなたと共有したのです。私はそのような特別な確認を持っているとは思いません。おそらく重要なのはルクセンブルクのラジオかもしれません。ここサンパウロでは、地域の干渉と、テスト中の2000年代半ばに再び送信されていたため、ここで聞くのが難しい放送局があります。ソビエト連邦のいくつかの国がありますが、ここブラジルでは聞くことが期待されていませんでした。信号は非常に弱かったが、私はそれらを聞くことができるという私の主張は、私にとってすでに非常に大きな個人的な満足である。

短波のラオスのようなアジア諸国からのリスナーもいます。中波でもたくさんのDxsismをやりました。それはいつも私を魅了しました。中波ではヨーロッパ、アメリカ、カナダ、そしてアフリカ、サンパウロと同じくらい大きな都市に住んでいるブラジルのDxsistaにとって、それはすでに非常に個人的な充実感です。私は世界最大の都市の1つに住んでいるの

で、とにかく周辺地域に住んでいます。それはかなり樹木が茂っているので、とにかく、サンパウロに住んでいてDxをやるのは、すべての人にとってではないので、もっと難しいリスニングをするためのより良い条件があることを認識しています。



写真010パーソナルアーカイブ：サンパウロのラジオルームにいるデニス、今日、SDRの最新テクノロジーに囲まれています、クラシックレシーバーの素晴らしいコレクションも保持しています。ここでは、Realistic DX 160（別名 Radio Shack DX 160）として、Radio Bandeirantes de Sao Pauloの信号が冬の低伝搬の影響を受けた特定の瞬間に、6090kHzで彼の最高の確認の1つであるRádioTeleLuxemburgをもたらしました。

MB：大きな無線アンテナを作り始め、より専門的な受信機器を使い始めたのはいつですか？

90年代か91年代に、私はここサンパウロで非常によく知られ、非常に伝統的なモニター研究所で電子工学コースを受講し終わりました。それから私は電気通信を勉強し始め、そこで私はより専門的な機器に興味を持ち始めました。ジュニア・トーレス・デ・カストロ（PY2BJO）やバジリオ・バラノフなどのアマチュア無線の友人であるラジオ・アマチュアは、技術分野に深く関わっていました。

MB：なぜ当時のブラジルのDxsismoはアンテナに興味がなかったと思いますか？

アンテナに興味がないのは、手間がかかり、試作品をたくさん組み立ててから、受信機で長時間テストして、実際に動作するかどうかを確認する必要があるためだと思います。それがデザイナーになって、アンテナが聴きやすくなり、それがますます複雑になりました。アンテナを組み立てるたびに、赤ちゃんにスイーツを与えることだったと思います。以前よりも良かったです。私はとても幸せでした、そしてそれは深刻なDxがより深刻になるたびにとどまり始めた場所でした。

MB：そして、私が知っているループDZはどのようにしてクラシックになったのですか？ここブラジルでは、非常に異なる特性のアンテナを製造している人が2人いると思います。ループアンテナのDenis Zoqbiと、DX Clube do Brasil用に製造されたRGP3フェライトアンテナを備えたRené Passoldです。コーヒー。

最もよく知られているのは中波ループDz40アンテナです。これは40センチの開口部があり、それはポストボックスと同じ長さであるためです。90年代から、多くの人はそれが理由であるとは知りません...今ご存知のように（笑）、もっと簡単に、もっと安く発送できるようにすることでした。

そのアンテナで、私は中波を聞き始めました。中波ステーションが南アメリカ、ヨーロッパ、アフリカ、米国全体に伝播しているとき、私は非常に興奮して、どんどん大きくループし始めました。もっと大きなものが集まって、私はスーパーループから呼び出します、そしてそれは4メートル以上の面積を持っています、現在私はラジオリスニングのために南のコーンで今日使用されている最大の固定ループアンテナを持っていると言うことができます。

90年代の終わりに、私は雑誌の編集局で働いていました。パリのダカール、オートバイレースをカバーする必要がある、ラジオ、正確には送信されたモロッコを聞くことができるように装甲アンテナを組み立てる必要がありました。短波では、私は本当にそれらのラジオを聞くための愛好家のDxプレーヤーとして必要ではありませんでした、私の仕事のためでなければ、私は可能な限り最悪の時間に聞く必要さえありました、それは私が開発した技術分野の友好的な人々とそれでしたプロトタイプモデル、もちろんループアンテナは私の作成ではありません。ループは第二次世界大戦から来ました。私は持ち運び可能で、多くのゲインを持ち、同じアンテナで複数の帯域を持つことができる最終仕上げに到達することができます。同じアンテナで短いすべての波帯のように、熱帯の波を聞くことができます。

その後、装甲ループは1997/98年に登場し、現在も市場に出回っています。



写真011個人アーカイブ：デニス、彼の巨大なアンテナプロジェクトの1つ、ブラジルのサンパウロにある自宅でラジオを聴いてくれました。

MB：すでに販売したアンテナの数を追跡していますか？

4,000本以上、世界中のラジオ販売会社と販売を行っていますが、ヨーロッパだけで、趣味で生まれたアンテナの販売の有無にかかわらず、すでに約1,500本のアンテナを販売していると思います。 同じ趣味を持つ他の人たちがラジオをより良く、低コストで聴けるように手助けできるようになったことを知って、私は大きな満足をもたらし、本当に何かをしたと感じました。 趣味



写真012パーソナルアーカイブ：ブラジルのリスナーが使用している、現在もコレクションに残っている、または現在も使用されているループDZアンテナの最初のモデルの1つは、最高品質のカナダ杉材で手作りされました。次のリンクでは、このアンテナの開発に関する完全なレポートがあります

<http://www.sarmento.eng.br/LoopQuadroOM.htm>

MB：インターネットなどの多くのテクノロジーと混ざり合った短波の未来をどのように見えていますか？

私が80年代にラジオを始めたとき、ラジオを聞くことは誰にとっても何の役にも立たない趣味だと言われていましたが、その時は間違った発言だと知っていたので、秋を聞きました。ゴルバチョフの力について、ボリス・エリツィンが最高ソビエトの崩壊を祝うのを聞いたり、アルメニアなどの変容する国々を聞いたりしたので、まず第一に、Dxsistであることは他の趣味ではないという知識をもたらしたと思います持ってきてください。

ラジオは、他の技術装置と同様に、新しい技術に適応することになりました。今日から始まるDxsistaは、より高品質のアンテナを使用せずに、今日の大きな世界的な問題である電気干渉を減らすことができるプロの無線機器を使用せずに、ラジオを聞くつもりだと考えています。従来の方法での無線は今日Dxを実行できません。現在、SDRを備えた優れたソフトウェアを使用するなど、現在利用可能なすべての新しい技術的要素で更新されれば、無線には未来があります。

電話ネットワーク、衛星、インターネットは失敗しますが、ラジオは失敗しません。

私たちはまだ宇宙システム、データ通信、パケット無線、衛星を介したデータ送信を持っています。そして、セキュリティシステムは最終的にアマチュア無線無線環境になります。無線システムは確実であるため、特定の伝搬時間、各帯域の特定の時間があり、通信システム

としての無線は失敗しません。インターネットが妨害される可能性があるので、ラジオが死ぬことはありません。新しいDxsistaまたは以前の人が新しい利用可能なテクノロジーの使用方法を知っていれば、私たちの趣味ではまだたくさんの趣味があると確信しています。長い間。

私が小さい頃、他の地域から衛星やテレビをキャプチャしようとしている人がすでにいたことを覚えています。今日、私は40～50歳の範囲にあり、アプリケーションを介して衛星をキャプチャする携帯電話を手にはしています。、それはDxersではありませんが、これらのアプリケーションを介して、さまざまな通信手段にアクセスし、いくつかの障壁を打ち破ります。もちろん、大企業は八重洲、アイコム、JRCなどの受付機器を製造し続けていますが、携帯電話を使ってSDRに入ることができ、何かをすることもできます。

MB：それで、あなたが私に言ったことから、趣味は死ぬことはないでしょう、しかしそれはDxsistからの努力も必要としますか？

今日のDxsistaが快適ゾーンから抜け出す必要がある場合、私たちが趣味と呼ぶものが本当に非常にアクティブであることが不可欠です。今日、米国とヨーロッパでは、ラジオを聞く人々が従来の機器と多くの利点を活用しますが、趣味が引き続きアクティブになるように、アンテナを改善し、フィルターを改善し、ノイズキャンセラーを配置することができただけです。

MB：これらのコーヒーインタビューは、一般的にブラジル国外の読者を対象としています。ブラジル人としてどう思いますか、技術的に言えば、そしてもちろん個人的な能力について、彼らはブラジルのDxsistaについてどのように見えますか？

さて、ブラジル人だけでなく、ラテン語のDxsismを見ることができない場合、Dxsistaがアマチュアラジオでない場合、主に機器へのアクセスのために、ヨーロッパ、北米、または日本語とは大きく異なります。彼らは通常それに慣れています。最も一般的な機器でラジオを聞くために。

さて、それがアマテラスラジオの場合、一般的に、私たちが多くの人々であるという人口問題のために、より良いチームとブラジルのDxsismに変わります、私たちはより多くの人々がいるので利点があります。

。これは、アルゼンチンやチリほど人口が多くなく、優れた技術機器を利用できる南米の国々でも発生しますが、古いものの、他のラテン諸国では、さまざまな政治的および経済的問題のために到着すらしていません。

ブラジル人は彼が持っているものを装備として何とか利用していると思います。

今やヨーロッパ人はより多くの機器にアクセスする方法が異なり、小さな国が隣り合っている大陸では、従来の方法で多くのことを聞くことができます。冬は非常に厳しいので、冬は非常に重要だと思います。冬、彼らは家でラジオを聴いています。

これに対抗して、ここラテン諸国のほぼすべてで、私たちはあらゆる種類の独裁政権を持っていたので、それを見つけるためにラジオに目を向ける必要がありました。まさにそのせいで大ブームだったと思います。ラジオを聞くのは70年代と80年代で、情報提供が不可欠でした。幸いなことに、これらの独裁政権はほとんど存在していません。

ブラジル人とラテン系アメリカ人が私たちについて持っている見解は、私たちはかなり単純なDxingを行い、非常に正直ですが、非常に良いレベルであると信じています。

MB：最後に、デニス、何か他のものを追加したい場合に備えて、私はいつもスペースを残しますか？

付け加えておくと、この趣味が好きな人はこの情熱を体験しなければならないと思いますし、世界は変わっていると言う人も多いと思いますが、この変革に参加するために何もしなければ、同意し続けるでしょう。人生は変わり、それはその一部にはなりません

Dxersはまさにこのツールを備えており、ラジオ、全世界を聞く可能性、最もばかげたもの、最もエキゾチックな国を何とか聞くことができます。90年代に目覚めるのが困難だったことを今でも覚えています。たとえばパプアニューギニアを4000キロヘルツほど聞くのは非常に早いですが、それは聞こえないものを聞くという個人的な感覚であり、それは今日のDxsistsに存在しなければならないことの1つです。

人々がラジオを聴きたいのなら繰り返しますが、彼らが快適ゾーンを離れなければ、彼らはほとんど同じことを得ることができません。

今日、大規模な放送局は放送を停止しています。さまざまな問題のために、これらは経済的である、視聴者の興味がないなどの可能性があります。あなたはもはや世界の主要な送信機を持っていませんが、まだ他のラジオがあり、世界は変容しています、ラジオは変貌を遂げています。

ここブラジルでは、20年前に米国で起こったことを経験しています。大きなAM局は、FMで地域的に放送を開始するためにシャットダウンしています。

ここブラジルの多くの人々はラジオが死にかけていると信じていますが、それでもブラジルの聴衆は出席しなくなっていると思いますが、一方でこれらの放送局の停電は、以前は不可能だった他のことを聞くことができるという利点があります。これらの大きなステーションが引き起こす干渉。

今年、私は891 Khzのイランの放送局、ラジオGazeta de Sao Pauloを聴きました。それは放送を停止し、890 Khzで動作しました。サンパウロのガゼタの聴衆に大変申し訳ありませんでした、しかし、その結果、私はブラジル人で、別のラジオ局を聴きに行きました。停電が発生すると、ラジオ信号を聴き始めました。遠距離無線通信が困難になるほど、遠距離無線通信が受信できるようになります。最悪の方法なので、Dxerが聞こえないものを聞いてフォーカスを失わない場合は、もう一度繰り返します。Dxsismは何年も続きます。

Robert Veltmeijer



写真012B : Robert Veltmeijer教授、写真撮影
親愛なる友人のフランシスコ・トゥレリ

ブラジルのDxsitasが地元のラジオリスナーの家長と見なしているRobert Veltmeijer教授の人生と軌跡について読む将来の調査のために、ブラジルのDxersの参考文献とのこれらのコーヒーインタビューを利用します。

Robert Veltmeijerは、1926年に生まれ、農業工学の訓練を受けたオランダ人でした。第二次世界大戦の経済危機から逃れてブラジルに到着した彼は、ブラジルのいくつかの異なる場所を通過した後、間違いなくサンパウロの中心部、正確にはラルゴ・ド・アルーシュの住所、418アパート56に位置していました。

ブラジルのDxsismに関する重要な会議がそこで行われたので、この方向性が鍵となるでしょう。

そのため、これらのコーヒーの会話はロバート氏について尋ねるためにも使用されたため、デニス・ゾブキへのこれらの小さな質問が浮かび上がります。

MB : ブラジルのDxsistsの総主教であるRobert Veltmeijer氏について教えてください。私たちは彼の家にとても近いと思いますか？

彼がここから2ブロック住んでいた場合、彼はここブラジルに定住しました。なぜなら、家族は世界大戦のためにオランダを離れる必要があり、家族は彼に比較的安い国に行くように勧め、彼はブラジルに来て、彼が住むようになったときです。ここでは、彼が話した言語を除いて、彼は職業を持っていなかったもので、彼は英語、フランス語、および他の言語を教え始めました。

私は彼の家によく行きました、彼はとても面白い人でした、彼はひどい気質を持っていました、彼は時計を見てあなたに話しかけました、そして突然彼はあなたを断ち切り、何かを解決するために行かなければならないと自分に言い聞かせました立ち去ってください。

(笑) ...でも、奥深くはとても親切な人でした、

私は1988年にアパレシーダの街で彼に会いました。ブラジルのdxers会議と呼ばれる会議がありました。それからロバートの家でラジオについて話す会議があったことを覚えています。その会議で彼は話しました。私の家に来てラジオについて話しました。私は冗談だと思った。2日後、彼は私の家に電話で私を呼んで、母に不平を言った。私が行かなかったので、私は若く、とても若かった。私は約14歳で、ロバートは半分怒っているようだった。でも母は私が行けると言って、素晴らしい友情が始まりました。

その後、多くのブラジル人のDxersが家に集まり、ラジオについて多くのことを学びました。とにかく、私のラジオのリファレンスは、いわばより技術的で、私が言及したものです。彼らは私の親愛なる友人であるBasilioBaranoffとJuniorTorres deカストロ。



写真013Ligia Katze : デニスとマーティンが楽しいコーヒーチャットを締めくくる

このようにして、南米のシーンで最も影響力のあるブラジルのDxsistsの一人と、この完全で非常に興味深いコーヒートークを終了します。

DenisZogbiが持ってきた魔法のフォルダーからのQslをいくつか紹介します。



写真014Ligia Katze : デニスがマーティンとQslを共有



TDF Groupe France Telecom		QSL	
Ondes décimétriques BP 518 - 92542 MONTROUGE			
TÉLÉDIFFUSION DE FRANCE confirme votre rapport d'écoute et vous remercie			
fréquence (kHz) :	11995	GOMEZ ZOGBI DENIS	
bande (m) :	25 m		
date :	19/09/93		
UTC :			
station :	22H00-23H00	SAO PAULO SAO PAULO BRASIL	
Programme : Radio France Internationale BP 9516 PARIS		MONTINERY (GUYANE FRANÇAISE)	

写真015,016 : ラジオフランスインターナショナル (RFI) アンテナの有名な写真で、短波送信と他の送信サービスを送信するために、それぞれ500kWの12個の送信機から電力を供給される12個の回転ALLISSアンテナです。



写真017：フレンテラジオカナダのQsl、デニスをマークしたステーションの1つ



写真018：素敵な特別アドベンティストワールドラジオ（AWR）コレクション、短波放送の30年を記念して。

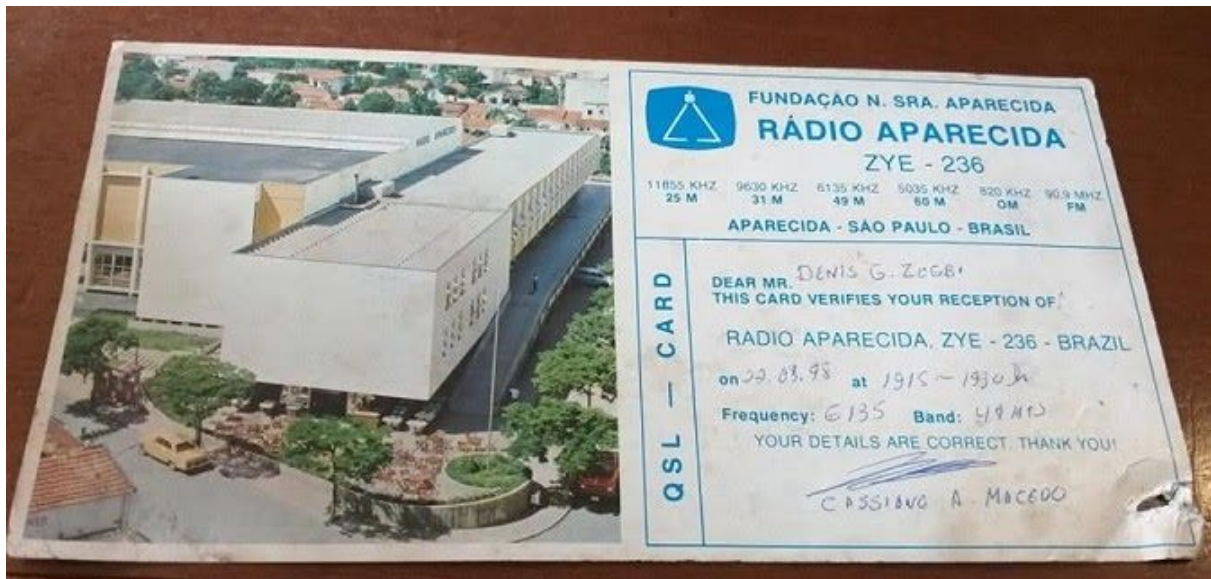


写真019 : ブラジルの短波ラジオ局RadioAparecidaSãoPauloのQsl。



写真020 : Qslsコレクションシリーズ
ラジオスロバキア国際

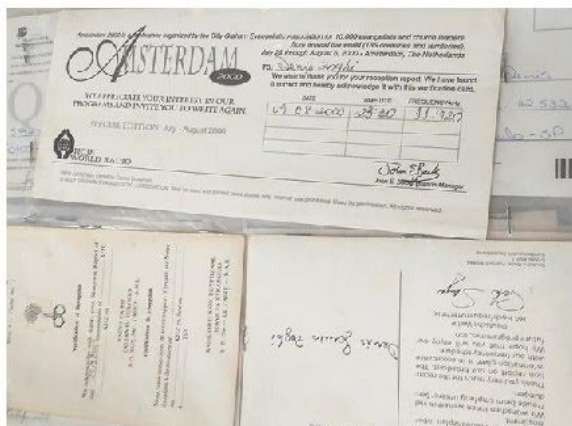


写真021：3つの異なるステーションからのQSLのミックス

Deutsche Welle（または英語に翻訳されたGerman Wave）（DW）は、ドイツの国際的な公共放送局です。DWの最初の短波放送は1953年5月3日に行われました。長年にわたり、DWは短波を介して42の言語で番組を放送してきました。近年、短波番組のほとんどを衛星に移しました。

キトのHCJBラジオ、素敵な大きなQSLカード（110 x 235mm）、これはビリー・グラハムが主催したアムステルダム2000会議を記念する特別なQSLカードです。

ポルトガル語のラジオカイロ国際放送サービス。



写真：022は（VOA）Voice ofRussiaのQslとアンテナWSHHのQSIを強調しています（サウスカロライナ州）、4x4回転カーテンアンテナの写真付き。



写真023 : ラジオジャパン、ラジオコリアからのQslを見ることができます。
ラジオフランスインターナショナルとDWドイツ。



写真024 : 公式ステーションのいくつかのqslの中で、私たちはの奇妙なQslを見ることができます
南米の海賊局、ブラジルのサンパウロからのラジオP1です。

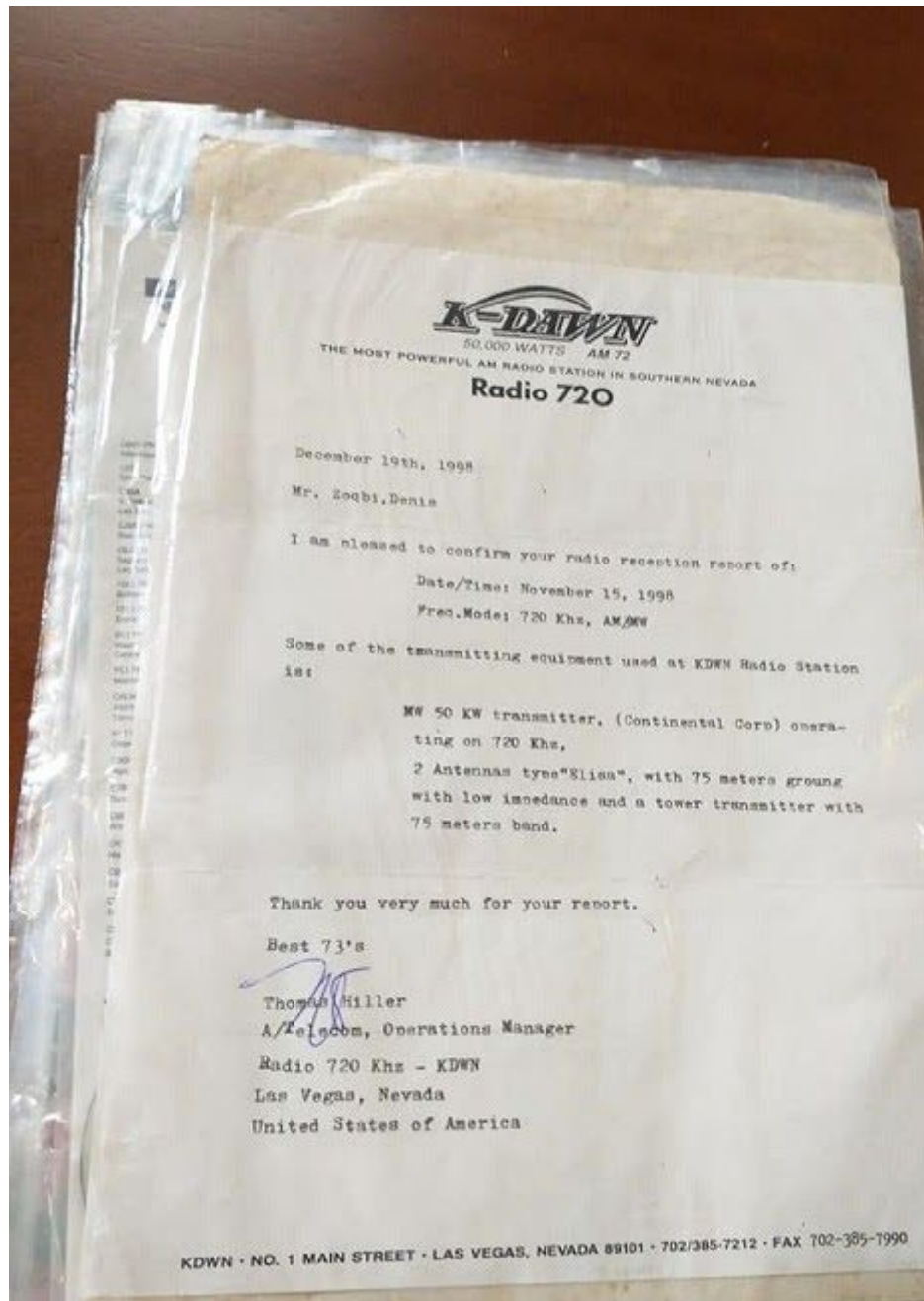


写真025：最後にDWN（720 kHz）の興味深い確認。

DWNは、ネバダ州ラスベガスにある商用AMラジオ局であり、ビーズリーブロードキャストグループインクが所有しています。この局は、識別文字を「K-Dawn」と発音します。ステーションのスタジオは、スプリングバレーの法人化されていないクラーク郡エリアにあり、ヘンダーソンのガレリアドライブにある3タワーの施設から放送されていましたが、1998年11月にデニスゾブキがこれを聞きました。

ブラジルのサンパウロでの局地的な電波干渉が激しいため。

God of the Brazilian BCL

Robert Velmeijer



Robert Veltmeijer (1926-1995)

70年代半ばから初期にかけて日本の短波放送ブームに大きく貢献した故山田浩二卿の誕生日である12月17日は、日本では誰もが知っているように、BCLデーとして設立されました。80年代から。

ここ世界の反対側では、別のDxsistであるRobertVeltmeijer氏と非常によく似た特徴があります。

彼はここブラジルで短い波を聞くのが好きな人々の一種の父親であり、カリスマ的で多言語の男性（いくつかの言語を話しました）は非常に高い文化を持っていました。

サンパウロの中央部にある彼の家は一種の本部であり、彼は両手を広げて短波のすべての愛好家を歓迎しました。

山田浩二氏のように、彼はいくつかの言語でいくつかのマニュアルとレセプションレポートテンプレートを書きました。これは、インターネットがなかった当時を少し想像してみればかりのブラジルのDxsistsにとって非常に役立ちました。

それはクラブやイベントの創設を奨励しました。

何年もの間、ブラジルのDxsistsは、7月14日の誕生日の日である「ブラジルのBCLの日」が考慮されることを明かすことを主張してきました。

ブラジルにおけるDiexismの最大のインセンティブ

1926年にオランダで生まれたRobertVeltmeijerは、農業工学の訓練を受けました。彼は最終的にブラジルに到着する前にポルトガルに住んでいました。サンパウロ郊外のいくつかの地区を通過した後、彼は最終的にサンパウロの中央地域、より正確には住所のある建物（ラルゴ・ド・アルーシュ、418アパート56）で安定し、そこで母親、妻、3人と暮らしました。子供達。

ロバート・ベルトメイジャーは一人っ子で、1970年か71年に母親が亡くなり、うつ病の瞬間を経験しました。悲しみから逃れるために、彼は忙しくする趣味を探し、それから彼はラジオを聞くことに戻りました。それは第二次世界大戦のヨーロッパでの彼の若い頃からの古い活動です。



写真01 : Francisco R. Turelli : RobertVeltmeijerによるラジオシャック

投稿者 : Martin Butera

「ブラジルの10代のパトロン」の魅力的な話を始める前に、サンパウロのマイリポラン市のブラジルのDxsistaSérgioDóriaPartamianの助けを借りて、次のレポートが作成されたことをお伝えしたいと思います。-青年期にロバート・ロバート・ベルトメイジャー氏と会い、いくつかのラジオ活動を一緒に共有したブラジル。

セルジオドリアパルタミアンと一緒に、ブラジリアDFとサンパウロの自宅からWhatsappを介して、無限で楽しい電話での会話をしました。彼は、グラフィック素材と独占的な音声をメールで提供してくれました。編集者の関山玲和さん、特にABCクラブの皆さんと共有します。これらのオーディオは、ロバート・ベルトメイジャー氏の人生に関するほとんどすべての詳細が由来しています。

私はまた、別のDxsistaと彼の仲間の冒険家Francisco R. M.Turelliの個人的な友人であるRobertVeltmeijerによって書かれた「DXClubedoBrasil」のポルトガル語で出版されたテキストに依存しました。

また、これらのコーヒーインタビューのおかげで、Robert Veltmeijer氏（ブラジルのBCLの神）についての情報を得ることができました。一部は公開されており、一部のインタビュー対象者、他のDxistsの最後に読んだことがあります。それらは公開されます。

また、娘の一人「アニタ・ベルメイジャー」と電話で話をしましたが、父親のことを思い出して話すのは難しいですが、彼女はこの仕事を知っています。

必要に応じて、「ブラジルのDxsistasの守護聖人」、「ブラジルのBCLの神」について、日本語とABCクラブの読者のために初めてこの独占レポートをお読みください。

ロバート・ベルメイジャーとボーイング707の接頭辞PP-VJZが付いたエピソード

1973年7月11日、ヴァリグ飛行機がパリ地域で墜落し、オルリー空港に着陸するのに数分かかりませんでした。

この事故についてブラジルで最初に知ったのは、ツール・ド・フランスを短波で聞いたラジオDxsista RobertVelmeijerでした。

サンパウロにあるヴァリグのオフィスでは、誰も何も知りませんでした。その後、マスコミは多くの人々を殺した恐ろしい事故を報告しました。

Flight Varig 820は、1973年7月11日にブラジルのリオデジャネイロのガレオン国際空港を出発し、イギリスのロンドンに向けて出発し、フランスのパリのオルリー空港に立ち寄ったブラジルの航空会社Varigのフライトでした。

ボーイング707の接頭辞PP-VJZである飛行機は、煙のためにフランスの空港から約4kmのタマネギ農園に緊急着陸しました。

機内下部のバスルームの1つで火災が発生し、キャビン内に存在していました。

事故で123人の乗客が死亡し、11人がなんとか生き残った（乗組員10人と乗客1人）。

当時ブラジルで最も有名な歌手であった有名なアゴスチーニョドスサントスがブラジルを旅行していたため、事故はブラジルに非常に強い痕跡を残しました。

当時の他の有名な人物は、その飛行機でブラジルに旅行していました。その中で、上院の前大統領、フィリント・ミュラー、ジャーナリストのジュリオ・ドラマル。

それらに加えて、事故はパンアメリカン競技大会で2度の金メダリストであるブラジルのヨットアスリートヨルグブルーダーと女優レジーナレクレリーを殺しました。



写真02パブリックドメイン：ボーイング707飛行機墜落事故プレフィックスPP-VJZ

ラジオのロバートVeltmeijer小屋

このレポートでは、RobertVeltmeijer氏が中央地域のサンパウロの彼の部門で使用した受信機とアンテナを再現しようとしています。

レシーバー

Hammarlund HQ140XA、Delta208。ブラジル製の通信受信機と彼のお気に入りの「BarlowWadley XCR-30Mark2」ポータブル受信機。



画像03ハマルランドHQ140XA受信機の例としての写真。90年代から友人のセルジオドリアパルタミアンのラジオシャックにあり、現在もアクティブです。パルタミアン氏は、コリンズの機械式フィルターとメーターにデジタル周波数が追加されたと言っています。



画像04：ブラジルで有名でアマチュアラジオ用機器の元メーカーであり、1950年に世界的に有名なGelosoのモノブロックをイタリアから輸入したDelta208レシーバーの例としての写真。彼は現在セルジオドリアパルミアンのシャクにいて、セラミックフィルターを配置し、受信機は現在アクティブです。



画像05：Radio Barlow Wadley XCR-30 Mark2の写真例

Veltmeijer氏が好むラジオ「BarlowWadleyXCR-30 Mark 2」は、AM-USBおよびLSBモードで、500 kHz～30MHzの実行帯域を備えたポータブル受信機です。

この有名なラジオは、南アフリカで70年代に開発および製造されました。

それはそれのように聞こえないかもしれませんが、このラジオはそれを当時の最高のポータブル短波アナログ受信機の1つにするために革新的で興味深い技術で開発されました。

Wadley Loopと呼ばれるシステムのおかげで、精度と非の打ちどころのない安定性の両方で、当時はDDSおよびPLL回路がまだ存在していなかったことを覚えておく必要があります。

アンテナ

Robert Veltmeijerは、彼の建物に3つのアンテナを設置しました。そのうちの1つは受信機の隣にありましたが、窓の外側で南のセクターを覆っていました。彼女は16メートルでラジオニュージーランドの珍しい出現を聞くのが好きでした（最大の太陽活動の時だけ）、それはその時弱い送信機で放送していました。わずか7kWで、23：00（GMT）以降にのみ存在しました。これは彼の生徒が教室を去った時と一致しました。

もう1つのお気に入りには、19メートルのラジオタヒチで、ほぼ同時に到着し始めました。

Robert Veltmeijerの2番目のアンテナは、部屋のもう一方の窓の外にありました。

上層階に住む隣人は、ほとんど気付かないほどの糸を見るのを嫌がり、アンテナマウントを壊すまで、かさばるゴミのパッケージを捨て始めました。Robert Veltmeijerは、2本のグラスファイバー釣り竿を所定の位置に置き換えることで創造的でした。

3番目のアンテナ（はるかに長い）はその巨大な建物の最上部にありましたが、雷による感電の恐れがあるためあまり使用されていませんでした。彼は、分離できない受信機であるBarlowWadleyを燃やすのではないかと心配していました。

モニター

Robert Veltmeijerは、ブラジルのサンパウロでBBC Radio London、Radio Nederland、Radio Kol Israelのモニターを務めていましたが、彼はまだ9009kHzで放送していました。

それはいわゆる「冷戦」の時であり、駅の名刺には、彼の写真がハマーランドの受信機に合わせられ、「短波モニター、自由世界のすべての駅のQRV」と警告する碑文がありました。（「自由世界」のすべてのステーションで利用可能な短波モニター）。

国際ラジオモニターは、有料かどうかに関係なく、国際局にサービスを提供するリスナーです。そのサービスは、技術部門によって指定された時間に周波数監視を通じてステーションエンジニアを支援することで構成されています。

モニターは、その地域のステーションの受信状態に関する情報を定期的に送信することにより、エンジニアが周波数を選択するのを支援し、国際送信が最高品質で他のリスナーに到達するのを支援します。



写真06：セルジオ・ドリア・パルタミアン、ロバート・ベルトメイジャー氏のQslのアーカイブ写真



写真07：セルジオドリアパルタミアンのアーカイブ：BRTベルギー。エクアドルのHCJBからの干渉を受けている可能性のある南米の放送周波数の監視を要求する、ステーションエンジニアからRobertVeltmeijer氏に送信された電報。--03 / 28/82

ロバート・ベルトマイヤー氏の盗聴

中東での戦争中、彼はラジオコルイスラエルが戦闘機をヨムキプル戦争に呼びかけるコードコールを聞くのが好きでした。

1973年のアラブ・イスラエル戦争、10月の戦争、ラマダン戦争、さらには第4次アラブ・イスラエル戦争としても知られる第四次中東戦争は、エジプトのためにアラブ諸国が主導する政府連合の間で1973年に起こった軍事紛争でした。そしてイスラエルに対するシリア。

これらの出来事に夢中になっていたDxsistsは、彼が次々とタバコを吸い、ひげをこすって気を散らしたことを思い出します。

ロバートは、第二次世界大戦中の思春期のオランダの時代を思い出しました。彼はイギリスにあるラジオ局を秘密裏に聴いていたときと、インドネシアでのオランダ軍の植民地闘争に参加したときのことです。

彼の素晴らしい記憶で、彼はかつてないほど戦争の歴史を知り、日付、特に戦闘の詳細を覚えるのが好きでした（フランシスコR.トゥレリは言います）。



写真08：RobertVeltmeijerのお気に入りのステーションの1つであるRadioKolのQsl。

RobertVeltmeijerの家での同僚の会議

70年代から80年代にかけて、ラルゴドアルーシュの部門、418アパート56サンパウロで無数の会議が開催されました。これはブラジルのDxsismoにとって重要な時期でした。

しかし、間違いなく最も重要な会議は、彼が1972年7月に開催した会議でした。1979年7月にブラジルのパラナ州フォスドイグアスで開催された「第1回南米Dxsistas会議」。

ブラジルとアルゼンチンのDxsistasの大勢の出席を頼りにしています。

これがこのレポートの最初の独占アーカイブへのリンクです。これはあなたの家で最初の会議の音声です。1978年に起こったことをよく聞いてください。この音声は今日42歳です。

このオーディオ（宝物）ファイルは、別のDxsistaSérgioDóriaPartamianのおかげで私に届きました。

さっきも言ったようにポルトガル語なので、編集者の関山玲和さんと一緒に日本語に適応させました。

この録音で最初に聞こえる声は、Robert Veltmeijer自身からのものであり、彼の家で開催された最初の会議を指しています。その後、他のDxsistsからもありますが、RobertVeltmeijerのコメントに焦点を当てます。

https://www.podomatic.com/podcasts/martinbutera/episodes/2020-11-21T05_28_55-08_00

ロバート・ベルトメイジャー氏からの言葉：「今日ここに20人以上の人が私の家に集まりました。これは私たちが初めて会ったことであり、成功したと思います。今日、多くの人々がここに参加しました。彼らが素晴らしい友達になるこの瞬間」；「私はこれらの会議を定期的に繰り返すことを考えています。私の意見では個人的な接触が非常に重要であるためです。ありがとうございました。私はRobertVeltmeijerです。」

あなたの書いた作品

1979年、Veltmeijerは「La-DX」と呼ばれるニュースレターの編集を開始し、数年間、ブラジルと外国のDxsistasに配布され、返送されました。

ニュースレターは、ポルトガル語と英語の記録と情報シートで構成されていました。



彼はまた、ブラジルのサンパウロからの「Globo Dx Club」にも協力しました。これは、Robert Veltmeijer氏が協力したニュースレターを発行した、80年代初頭のDxsistsのクラブでした。

1990年代まで、El Globo DXClubは当時最も多くの会員を集めていたと考えられています。

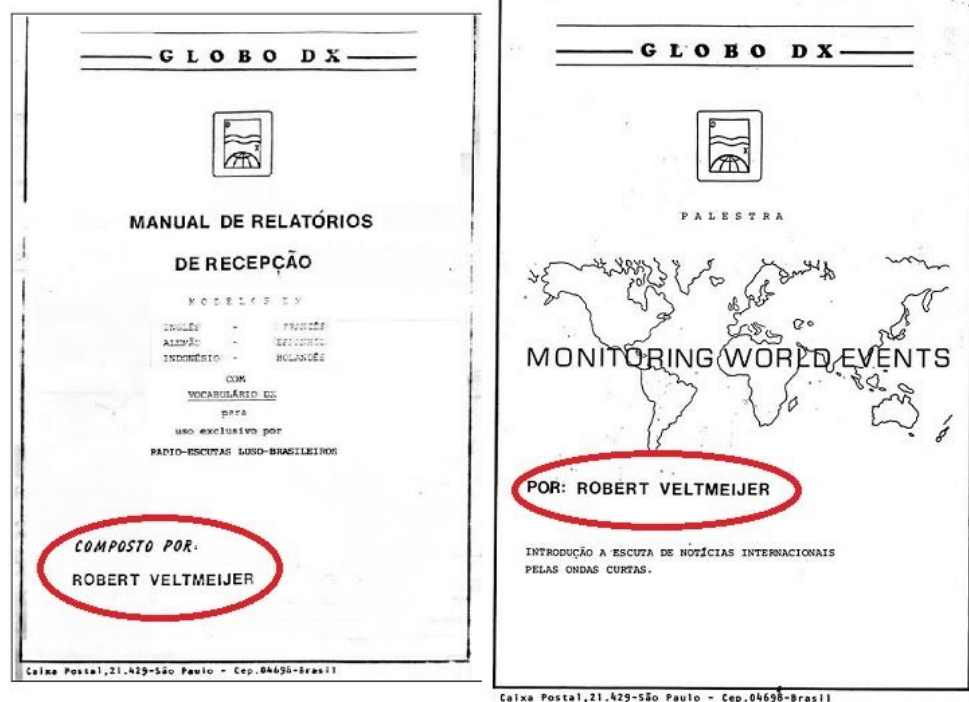


写真09：（左）、グローブDX、「受信報告マニュアル」英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、オランダ語、インドネシア語を見ることができます。Robert Veltmeijer（1986年）と右側のGloboDXによって書かれました。「監督世界ニュース」、同じくロバート・ベルトメイジャーによって（1987年）に書かれた。

RádioAparecidaの番組「EncontroDX」でのRobertVeltmeijerへのインタビュー（1987）



ラジオ局ラジオアパレシーダの画像010アーカイブ：ブラジルのラジオアパレシーダの古い管理下で、28年間プログラムを担当しているアナウンサーのカシアーノマセドの写真。

RádioAparecidaの番組「EncontroDX」でのRobertVeltmeijerへのインタビューの音声（1987）

ブラジルのサンパウロにあるマイリポラン市のロバート氏の個人的な友人であるセルジオドリアパルタミアンから提供されたファイル。

Encontro DXの初版は、1986年11月1日に放映され、Raimundo Leonardo Bezerraの粘り強さと、Radio Aparecida（ブラジルのカトリック短波ラジオ局）を監督したRonualdoPelaquim神父の放送のビジョンの結果でした。

ブラジルでデキシズムを広めることに大きく貢献している廃止されたGloboDXを監督するライムンドと、その宗教的性格に限定されないが、楽しさと訓練がプログラムを担当したカトリックステーションを監督したロヌアルド神父。その後まもなく、ロヌアルド神父はバチカンラジオに行き、そこでブラジルのサービスのディレクターになりましたが、来た他のディレクターは番組を放送し続けました。

1990年2月、ライムンドレオナルドベゼラは健康上の問題を抱えてプログラムを辞め、その年の3月にDxersBCLカシアーノアルベスマセドがプログラムを引き継ぎました。

プログラムが放映され続けているこの34年間で、マリアコスタピント（BBC）、ルイスエンリケパドヴァ（RN）、アイリーンフェイス（RHC）、ルイスエドムンド（VOA）など、ブラジルの国際サービスで働いていた数人の人物がすでにインタビューを受けています。）、セルゲイベルデンスキー（ロシアの声）。さらに、ブラジルのラジオからのいくつかの人格がインタビューされました。

彼女はまた、Robert Veltmeijerなどのいくつかの有名なBCLにインタビューしました。

BCLDxers Sérgio Dória Partamianが私にくれたインタビューからのRobert Veltmeijerによる独占オーディオ、今日はここで共有します。

これは、私の編集者である関山玲和氏、特にこの本とABC Clubのすべてのメンバーのおかげで、ポルトガル語から日本語への改作と翻訳です。

[Audio of the interview with Robert Veltmeijer in the program "Encontro DX" of Rádio Aparecida \(1987\) \(podomatic.com\)](http://podomatic.com)

Rádio Aparecidaジャーナリスト：BCLラジオを始めたきっかけは何ですか？

Robert Veltmeijer：ええと、私が幼い頃、祖母が私に機能しないラジオをくれたので、自分で修理することができました。それは私に衝撃を与えました。今日まで、それは多かれ少なかれ1937年か1938年頃でした。

Rádio Aparecidaジャーナリスト：男性が聴いているラジオ局は何ですか？

Robert Veltmeijer：彼はほとんどの日、BBCを聴き、次にドイツのDeutsche Welle、ラジオフランス、ラジオオランダ、ベルギーを聴いています。

Rádio Aparecidaジャーナリスト：男性がすでに聞いた中で最も興味深いステーションは何でしたか？

Robert Veltmeijer：技術的には間違いなくスリナムのRadio Apintieでした。その理由を説明します。使用したのはわずか35ワットで、マツグロソ州のブラジルのラジオがある4795の周波数でした。グロソなので、マツグロソの他の局が放送されていなかったとき、私はそのラジオを聞くのに30分しかありませんでした。

彼らは私に非常に興奮した手紙を送ってくれました、彼らは後で350ワットで送信し続けました、そして今彼らは3キロワットでいます、しかし私は35ワットでそれがおもちゃの駅だったと想像しました

Rádio Aparecidaジャーナリスト：なぜ男はブラジルを選んで生きたのですか？

Robert Veltmeijer：私は1954年に1年間の労働契約を結んでここに来ましたが、それがとても気に入り、結局ここに滞在しました。今日、私の子供たちはブラジル人で、私の孫はブラジル人です。

Rádio Aparecidaジャーナリスト：BCLはあなたにとってどのような意味がありますか？

Robert Veltmeijer：ええと、私はこれを一生練習しました。世界は小さくなったと思います。ラジオから、生き方、文化、芸術について学びました。

例えば、ラジオベルギーはベルギー料理のレシピを英語とスペイン語でたくさん教えてくれましたが、ベルギー料理を食べたいなら問題なく料理できます（笑）...

RádioAparecidaジャーナリスト：あなたは多くの言語を話しますか、どの言語でラジオを聴きたいですか？

Robert Veltmeijer：私の好みは次のとおりです。公用語で国を聞くのが好きです。ドイツ語で放送する場合はその言語で、Radio Franceはフランス語で、Radio Internacionalの場合はその言語で好きです。エスパーニャはスペイン語でそれをします、私は常に母国語を聞くことを好みます。

今はペルシア語などのラジオテヘランの言語がわからないので、ニュースを聞かなければならない場合は英語かスペイン語が好きですが、日本でも同じことが起こります。

RádioAparecidaジャーナリスト：他のブラジルのBCLとどのように関係していますか？

Robert Veltmeijer：誰とも戦わないと思います（笑）...

サンパウロで起こった場合、私はそれらを喜んで受け取ることを誰もが知っています、彼らはいつでも歓迎されています、私の家のBCL。私は経験豊富なBCLに初心者を採用するように言っていましたが、集まって支援するのに費用はかかりません。

RádioAparecidaジャーナリスト：そして、この活動を始めた人々に正確にどのようなメッセージを伝えることができますか？

Robert Veltmeijer：短波での電波の伝搬など、このテーマについて少し読んで勉強することをお勧めします。そうすれば、高度なデバイスや巨大なアンテナは必要ありません。

RádioAparecidaジャーナリスト：あなたが残したい最後のメッセージは？

Robert Veltmeijer：私はこの機会を利用して、ブラジルから、そして世界中のどこからでも私たちの話を聞いてくれるすべての同僚に抱擁をします。サンパウロを通過すれば、このインタビューのように大歓迎です。

最初のDxpeditionSerra de Angatubaサンパウロ、ブラジル（1975年）

75年5月29日から75年6月1日まで、Robert Veltmeijer、SérgioDóriaPartamian、FranciscoTurelliによって作成されました。

当時ブラジルで行われていたDxpeditionやDXcampについて話すことは、あまり情報がありませんでした。RobertVeltmeijer氏は、先駆者であり、ブラジルのBCLの最前線にいました。

45年後にこの写真を見ると、Dxpeditionの要素はほとんどないように見えてましたが、その活動は、ブラジルのDxpeditionで使用された最初のループループアンテナの1つを組み立てるなど、多くの成果を示しました。

そのDxpeditionから、Robert Veltmeijer自身が設計したQSLカードを見ることができます。これは、764kHzでの「セネガルからの無線放送」の受信を確認しています。

また、1975年にブラジルのDxpedition SerradeAngatubaSãoPauloで聞いた、RadioArgeliaから若いSérgioDóriaPartamianが受け取った別のQSLの貴重な確認。

ロバート・ベルトメイジャーの友人、当時の若い思春期のセルジオ・ドリャ・パルタミアンの声による独占的なオーディオが、その出会いの彼の経験について語っています。

（オーディオは、Dxpeditionが作成された後の1975年に録音されました）。

編集者の関山玲和さん、特にABC Clubのおかげで、ポルトガル語から日本語への改作と翻訳があります。

https://www.podomatic.com/podcasts/martinbutera/episodes/2020-11-21T07_35_03-08_00

セルジオ・ドリャ・パルタミアンからの、Dxpeditionでの彼の経験についての言葉：「私が参加した最初のDxpeditionは、ロバート氏の招待でした。彼は、ラジオを聞くためにフランシスコ・トゥレリィの家に行くと言っています。車で行くのではなく、オムニバスに行きました。すべてのものをバスの中に入れました。」

「目の前に鳥がたくさんいるラグーンがあり、とても美しい畑だったのを覚えています。私にとっては素晴らしい経験でした。」

「その場所には電気がなく、Francisco TurelliにはDC受信機があり、戦争通信受信機が他の機器に接続されていて、DC FIで作業し、1000ヘッドの計算を実行し、周波数に到達したことを覚えています。正確な5KHzはクレイジーでした。（笑）...10代の私にとってはすごかったです」。

「これは中波DXでの初めての経験でもあり、ループアンテナの組み立てでは、アンテナを家のドアのフレームに置いたのを覚えています。また、529でも中波でセネガルを聴いたことを覚えています。KHzアルジェリア、北米のさまざまな放送局、600KHzでキューバの放送局「RadioRebelde」を聴いています。

「私にとってのそのDxpeditionは、大きな学習経験でした。私は16歳で、非常に知的な人々の真っ只中にいました。」

「その最初の経験で、実際に他の人と交流し、同じ目標を達成するためにさまざまな機能を実行できるため、通常は孤独な趣味が可能であることがわかりました。」

「1975年からのDxpeditionの場所はありません。私にとって、その趣味についてはさらに不思議に思いました。」



セルジオドリアパルタミアンの写真アーカイブ：ブラジル、サンパウロ市のDxPedition Serra de Angatuba、Robert Veltmeijer、SérgioDóriaPartamian、FranciscoRoldãoTurelliが75年5月29日から75年6月1日まで作成。ロバート・ベルトメイジャー氏、エリー・ベルトメイジャー、フェリペ・ゴメス・ダ・シルバ、ジュリー・ジュリアナ・G・シルバ、アニタ・ベルトマイヤー、アリス・ベルトマイヤー、ネルソン・ゴメス・ダ・シルバ、クラウディア・トゥレツリ、セルジオ・ドリア・パルタミアンの写真家。

LADIX
BRASIL

EXCURSÃO DE RADIO-ESCUTA A
SERRA DE ANGATUBA (265 KM.SO de S.PAULO)
DOS DIAS 29 MAI 1975 — 1 JUN 1975
por FRANCISCO ROLDÃO TURELLI, SERGIO DORIA
e ROBERT VELTMEIJER PARTAMIAN

RADIO: **RADIODIFFUSION DU SENEGAL - DAKAR**
Durante a excursão sintonizámos a sua estação na freq.de
Durante la excursión escuchamos su estación en la freq.:
During this excursion we heard your station on:
[] [7] [6] [4] [] KHZ.

às 2040 hrs. com S - Sinal - Signal 4.ben.....
á las GMT hrs. con I - Interferência 5.ass.de.QRM.....
at hrs. with O - Recpcao-Overall conditions..4.ben.....

programa: **Neuvelles locales, informations politiques** idioma-Language: **Français**

Observ:
Après quelques minutes QRM du poste d'Encarnación del Paraguay,
très peu

73's

pedimos a gentileza de
please **QSL**

SérgioDóriaPartamianの写真アーカイブ：Robert Veltmeijer自身が設計したQSLカードを見ることができます。
これは、764kHzでの「セネガルからの無線放送」の受信を確認したものです。

الإذاعة والتلفزيون الجزائرية
RADIODIFFUSION - TELEVISION ALGERIENNE
Q. S. L.

م. SERGIO DORIA PARTAMIAN

Rapport - Report 29.5.75
Fréquence - Frequency 529
M-GMT 2330

تقرير
الذبية
التوقيت

セルジオドリアパルタミアンの写真アーカイブ：ラジオアルジェリアから若いセルジオドリアパルタミアンが受け取った貴重なQSLで、1975年にブラジルのサンパウロのセラデアンガトゥバにありました。

このレポートを書くために私と共有してくれた友人の
DxsistaSérgioDóriaPartamianが現在所有しているRobertVeltmeijer氏のいくつか
のQslとドキュメント。



Radio Apintie

Verlengde Gemenelandsweg 37

Paramaribo - Suriname

Paramaribo, January 12, 1980.

Mr. Robert Veltmeijer,
Largo do Arouche 418 apto. 56,
01219 Sao Paulo,
Brasil

Dear Sir:

Thank you very much for your letter dated
December 12, 1979.

It is with pleasure that we hereby confirm,
that according to the informations given in your
report, you have been listening to Radio Apintie.

The transmitter you heard is a Philips
50 watts transmitter coupled to a 5 element monoband
Doublet Log Periodic antenne with a gain of 10 db.
This transmitter is meant to serve the people of our
interior but it is nice to receive reports from
people abroad.
We also have a FM Stereo transmitter (Sintronic) of
1000 watts with 6 relay Stations (10 watts) and an
AM transmitter (Gates) of 1000 watts.

Please find enclosed a card with views of
Paramaribo our capitol.

Thanking you again for your reception report
we remain.

Yours truly,


E. VERVUURT
(Director)

P.S. We started transmitting
on the short-wave band in
September 1979.

Tel. : 98855 - 98800

P.O.B. 595

Girorek. : 20.38.897

Bankier : Alg. Bank Ned.

セルジオドリアパルタミアンの写真アーカイブ：ラジオアピンティの1回の受信に関する貴重なレポート-スリナム、
ロバート・ベルトメイジャー（1980年）



Radio Apintie

Verlengde Gemenelandsweg 37

Paramaribo - Suriname

Attentie aan de Heer R.Veltmeijer.

Geachte Heer Veltmeijer:

Gaarne zeg ik U hierbij dank voor Uw brief d.d. 12 December 1979. Apart ingesloten doen wij U een bevestiging toekomen van Uw ontvangst.

Alhoewel het niet specifiek in de bedoeling ligt van Radio Apintie om in het buitenland gehoord te worden, zullen wij zeer intensief aandacht schenken aan de door U gedane suggesties. In elk geval ligt het in de bedoeling om zeer binnenkort het vermogen van de zender op te voeren tot 500 watt en in de verdere toekomst tot 5000 watt ERP.

Nogmaals dank ik U voor Uw brief en verblijf,

hoogachtend,

E. VERHOEFF

98855 - 98800

P.O.B. 595

Girorek. : 20.38.897

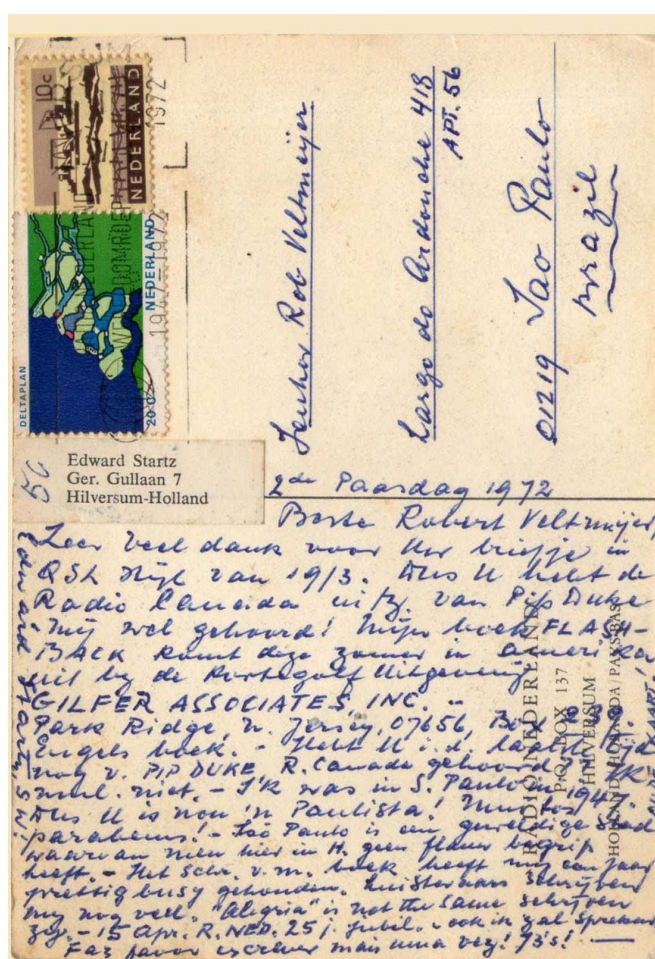
Bankier : Alg. Bank Ned.

セルジオドリアパルタミアンの写真アーカイブ : ラジオアピンティの2回の受信からの貴重なレポート-スリナム、
ロバート・ベルトメイジャー (1980年)



<p>Confirming your reception report of our 6090 Kc station on 7.12.1970 at 0700 GMT</p> <p>Thanks for QSL and Best Wishes</p> <p>CLT</p> <p>Radio-Télé-Luxembourg Villa Louvigny Luxembourg Grand-Duché</p>	<p>LUXEMBOURG 11.2.71</p> <p>LUXEMBOURG 01.50 F322</p> <p>Mr. Robert Veltmeijer</p> <p>Largo do Amouche 418 apt. 56</p> <p>Sao Paulo</p> <p>Brasil</p>
---	--

セルジオドリアパルタミアンの写真アーカイブ : Valiosa QSL Radio Louxembourg、Robert Veltmeijer (1971 年)



セルジオドリアパルタミアンの写真アーカイブ：貴重なQSLラジオネダーランド-エドワード"エディ"スターツ（1970年にトムマイヤーに移管されたプログラム"ハッピーステーション"の作成者）から1972年にロバートベルトマイジャーに送られた通信カード。"ハッピーステーション"または"ステーション「デラレグリア」"は、最も有名な国際ラジオ番組の1つでした。



ISRAEL BROADCASTING AUTHORITY

Thank you for your report on
reception of our station **I.B.A.**
in Spanish

frequency 11.700 (300kw)
wavelength 25 m.b
GMT, to 00.00 date 9/10-12-73

Your report has been checked
and agrees with our log.

Greetings from Israel, שלום
offer barth

ISRAEL BROADCASTING AUTHORITY
JERUSALEM

View of Jerusalem, engraving, handcoloured France, 17th century



MADE IN ISRAEL
9610



Mr. Robert Veltmeijer

BRASIL

© Israel Museum, Jerusalem

DóriaPartamian : 貴重なQSL Radio Kol Israel、(1973年)

BBC WORLD SERVICE

Robert Veltmeijer

Member No. 8583

WORLD RADIO CLUB

a programme about radio communications
broadcast world-wide, every week, in the World Service

Comments and questions to: World Radio Club,
BBC,
Bush House,
London, W.C.2

World Service on the air round the clock

セルジオドリアパルタミアンの写真アーカイブ：BBCワールドラジオクラブへのロバートベルトメイジャーのサブスクリプション



ISRAEL BROADCASTING AUTHORITY
JERUSALEM

Thank you for your report on our station
I.B.A. *Op Aus LaS*
11.5.73 11.5.73 m.
date 11.5.73 - 16.12.73
from: to: GMT

Your report has been checked
and agrees with our log.

Greetings from Israel, שָׁלוֹם

SR Robert Veltmeijer
Lejo de Andrade V18/16
Lejo Paulo V18/19
Brazil

セルジオドリアパルタミアンの写真アーカイブ：もう1つの貴重なQSLラジオコリスラエル、（1973年）

次のコーヒーまで、みんなに感謝します

マーティンブテラー



BCL 大好きマガジン「BCL は趣味の王様」別冊

珈琲とラジオ

Martin Butera 著

発行日： 2020年12月17日（BCLの日）

編集人： せきやま☆れいわ

発行所： BCLの王子さま社

連絡先： E-mail: bcl_prince2014@yahoo.co.jp

Blog: http://blog.livedoor.jp/bcl_prince2014/

(C) BCLの王子さま社 2020

